

事務連絡  
平成24年3月30日

都道府県労働局労働基準部長 殿

厚生労働省労働基準局労災補償部  
補償課労災保険審理室長

### 訴訟関係業務に係る資料の送付について

労災行政事件訴訟における的確な訴訟追行のため、次のとおり資料を取りまとめたので、訴訟関係業務の参考にされたい。

#### 資料1 平成23年度主要判決（1頁～52頁）

資料1は、平成23年度の判決について、勝訴又は敗訴の要因分析等したものである。

勝訴判決は準備書面作成の際に参考となりうる判決であるので、勝訴要因の分析は今後の訴訟追行上の参考とされたい。

また、敗訴判決は訴訟追行上の問題点等を整理したものであるので、広く労災関係業務の研修等に活用されたい。

#### 資料2 脳・心臓疾患（持ち帰り残業・出張の多い業務）敗訴判決の分析 （平成19年度～平成22年度）（53頁～68頁）

資料2は、脳・心臓疾患（持ち帰り残業・出張の多い業務）敗訴判決について訴訟追行上の問題点等を整理したものであるので、広く労災関係業務の研修等に活用されたい。



## 平成 23 年度主要判決

## 1 精神障害判決

## (1) 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■■年■■月■■日 広島高裁	うつ病発症後の月141時間の時間外労働は、うつ病による能率低下も寄与していた可能性があるとして、業務起因性を否定した例	発症後100時間以上の 時間外労働
2	平成■■年■■月■■日 神戸地裁	浄化槽洗浄作業従事者に発症した精神障害は、長時間拘束や業務上の交通事故によって生じたものではないと判断された例	長時間拘束
3	平成■■年■■月■■日 東京地裁	うつ病により自殺した亡夫の研究プロジェクト業務は過重ではなく、うつ病発症後は些細なことに過大に反応するとした例	・発症後増悪考慮せず ・複数回の単身赴任
4	平成■■年■■月■■日 神戸地裁	JR線車両脱線事故の救護業務に従事した看護師のPTSDの発症は、業務に起因するものとは認められないとされた例	車両脱線事故による PTSD
5	平成■■年■■月■■日 大阪高裁	うつ病発症の主要な原因は、家庭内不和による精神的負荷であるとして、業務起因性を否定した例	・家庭内不和 ・遺書(うつ病発症後)
6	平成■■年■■月■■日 大阪地裁	精神障害発症の有無が争われているSEの自殺について、発症の有無を判断するまでもなく、業務による心理的負荷が過重でないので業務起因性がないとした例	発症の有無と業務起因性
7	平成■■年■■月■■日 最高裁	精神障害発症後の出来事を考慮しない二審判決に対して、最高裁が原告の上告受理申立を却下した例	発症後増悪考慮せず
8	平成■■年■■月■■日 横浜地裁	DSM-IV-TRの診断基準に基づいて精神障害を発症していないとした例	・精神障害の発症なし ・DSM-IV-TRの診断で 発病なし
9	平成■■年■■月■■日 東京高裁	・出来事が複数ある場合について、判断指針はそれらの相互関係等も評価しているとして、棄却した例 ・発病後の出来事に客観的に精神障害を発症させる負荷がある場合には相当因果関係があるとしつつも、業務起因性を否定した例	複数の出来事の考慮

(2) 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成●年●月●日 広島地裁	建設工事現場の工事事務所長が、工事の遅れ、工事のミス等の後の自殺未遂に業務起因性を認めた例	土下座
2	平成●年●月●日 名古屋地裁	約1年8ヶ月のうつ病治療中断中もうつ病は寛解していなかったとして、自殺の8年前に発症したうつ病について業務起因性を肯定した例	うつ病の寛解の有無
3	平成●年●月●日 大阪高裁	専門学校の新任講師が、長時間労働、海外引率業務や学園長からの叱責等の後に発症した精神障害に業務起因性を認めた例	持ち帰り残業、叱責

## 2 脳・心臓疾患判決

### (1) 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■■年■■月■■日 長野地裁	業務以外の発症因子が認められない若年労働者の突然死について、健常人にも原因不明の突然死があるとして、業務起因性を認めなかった例	業務以外の発症因子が認められない若年労働者の突然死
2	平成■■年■■月■■日 大阪高裁	スーパー店課長代行の労働時間数は、会社管理のIDレコーダーに基づき算出された労働時間であり、自宅に持ち帰った仕事の労働時間を認めなかった例	・労働時間管理システム(IDレコーダー) ・持ち帰り残業
3	平成■■年■■月■■日 大阪地裁	心筋梗塞により死亡した大手製鉄業研究所の主任研究員の国内出張に伴う移動時間は、労働時間とは認められないとした例	・出張に伴う移動時間 ・出張回数
4	平成■■年■■月■■日 大阪地裁	くも膜下出血を発症した新聞記者の休日取材頻度は不明であり、取材の出張に伴う移動時間は、労働時間とは認められないとした例	・休日の取材活動 ・出張の移動時間

### (2) 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■■年■■月■■日 最高裁	心疾患の障害を有する者の死亡の業務起因性を認めた高裁判決に対して最高裁が国の上告を不受理とした例	心臓機能障害を有する労働者の過重性
2	平成■■年■■月■■日 甲府地裁	特筆すべきリスクファクターが認められない若年労働者の突然死について、持ち帰り残業について業務性があるとして、業務起因性が認められた例	・特筆すべきリスクファクターが認められない若年労働者の突然死 ・持ち帰り残業
3	平成■■年■■月■■日 大阪地裁	携帯電話の開発・製造会社の大阪事務所長が、接待中に倒れ、くも膜下出血により死亡した事例	・接待 ・24時間オンコール
4	平成■■年■■月■■日 東京地裁	業務以外の発症因子が認められない労働者の突然死について、1か月当たり約60時間の時間外労働と付加的要因を総合考慮して業務起因性を肯定した例	・業務以外の発症因子が認められない労働者の突然死

### 3 その他

#### (1) 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■年■月■日 東京地裁	二重就労者の精神障害事案について平均賃金（給付基礎日額）を合算しないとした例	・二重就労 ・平均賃金の合算
2	平成■年■月■日 東京高裁	長時間労働の認められる労働者に発症した糖尿病及び糖尿病性ケトアシドーシスについて、ストレスと発症との間に因果関係があることにつき通常人が疑いを差し挟まない程度に真実の確信を持つにはいまだ不十分であるとして、業務起因性を認めなかった例	認定基準の定められていない疾病の業務起因性
3	平成■年■月■日 最高裁	中小事業主の特別加入者に係る出張中の災害について、業務遂行性を認めなかった例	中小事業主特別加入者の下見業務
4	平成■年■月■日 名古屋地裁	中等度酩酊の飲酒運転について、業務遂行性を否定した例	飲酒運転の業務遂行性

#### (2) 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■年■月■日 東京地裁	建設機械本部長を兼務している執行役員について労働者性が認められた例	執行役員

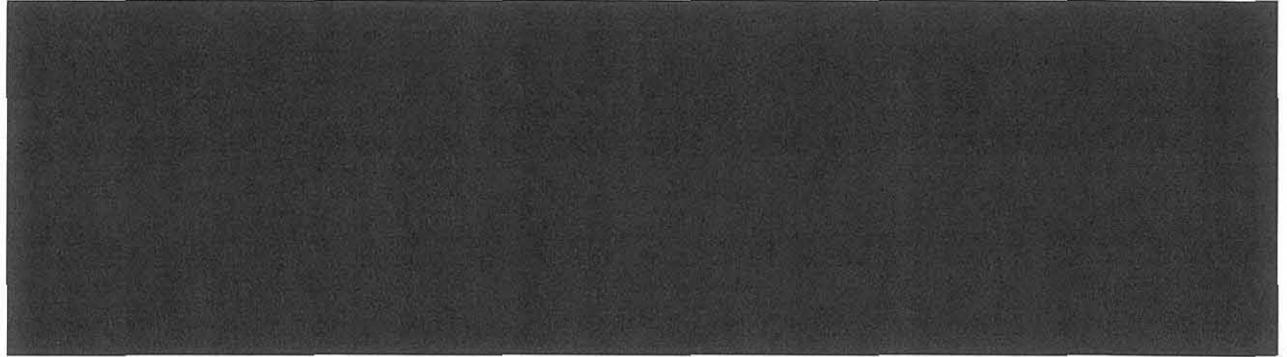
○〔精神1〕平成 年 月 日 広島高裁判決 国勝訴

(平成 年 月 日 広島地裁判決 国勝訴)

〔うつ病発症後の月141時間の時間外労働は、うつ病による能率低下も寄与していた可能性があるとして、業務起因性を否定した例〕

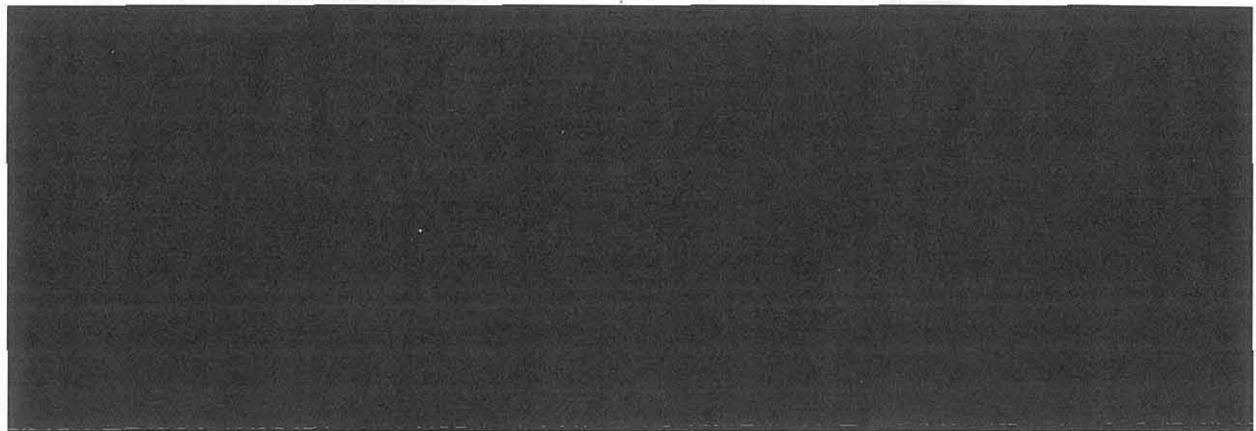
キーワード：発症後100時間以上の時間外労働

## 1 事件の概要

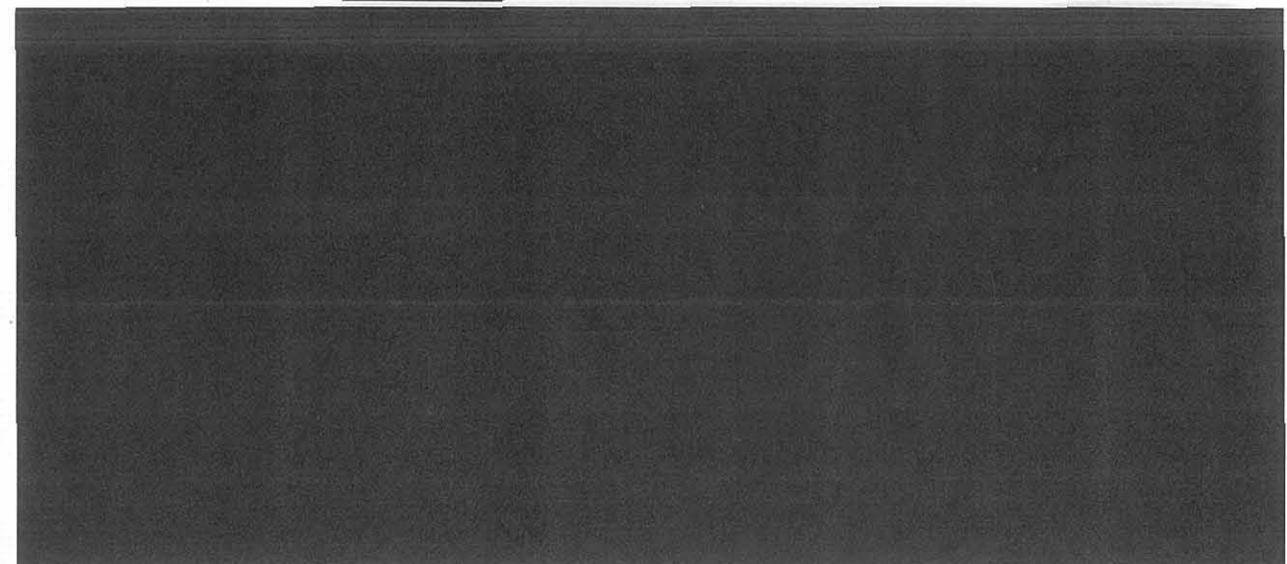


## 2 判決要旨

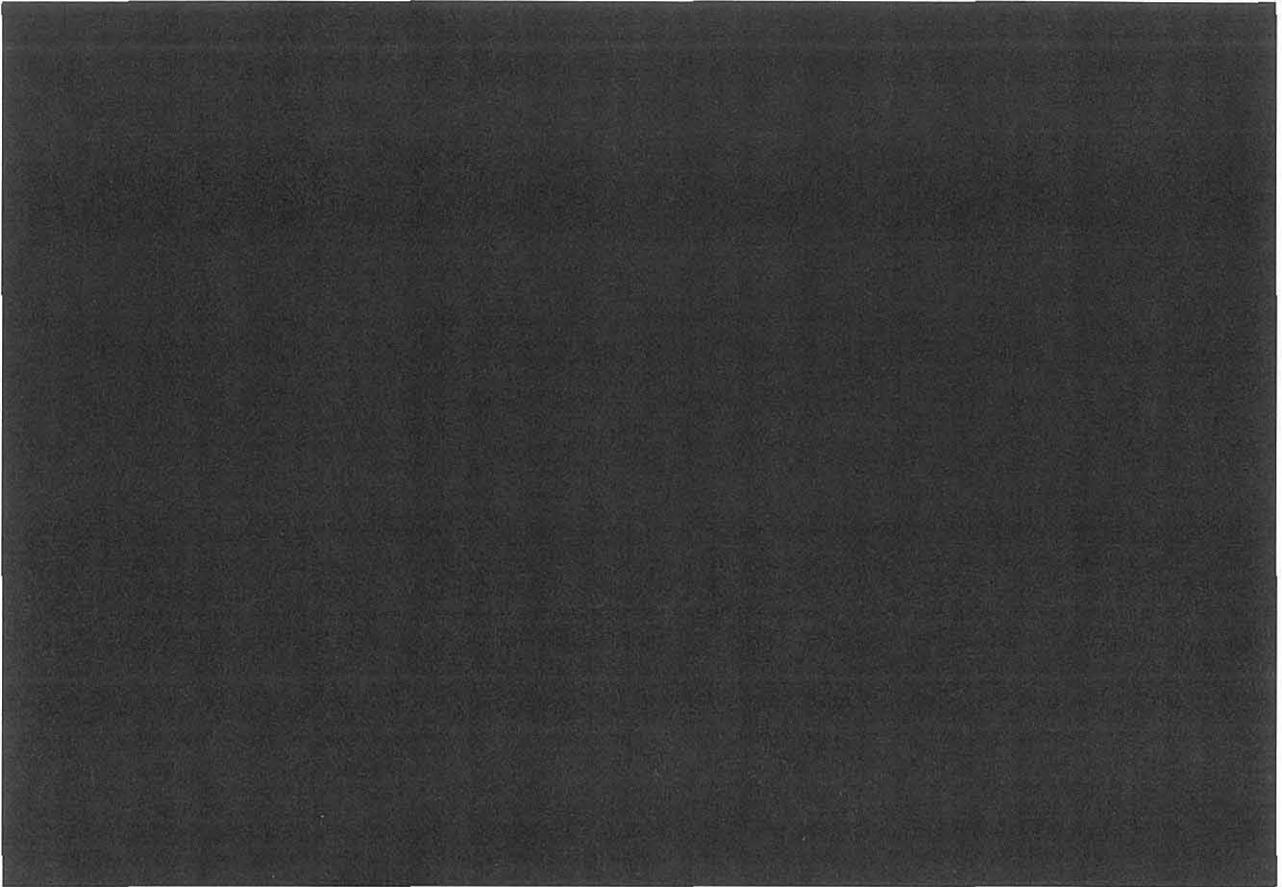
### (1) 〈判断枠組み〉



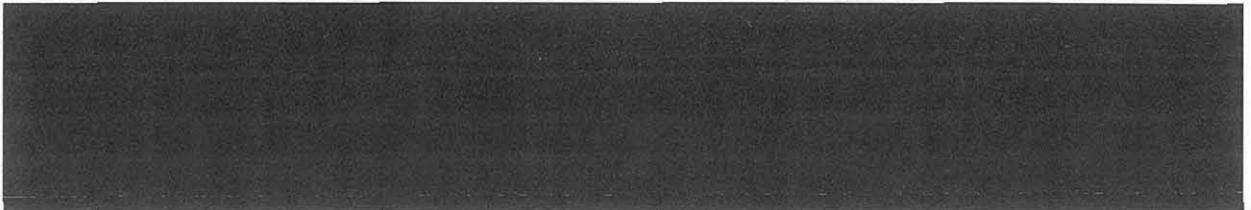
### (2) 〈うつ病発症時期〉



(3) 〈業務起因性〉



(4) 〈自殺について〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	うつ病発症後の141時間の時間外労働	
2	うつ病発症後の自殺	



○〔精神2〕平成 年 月 日 神戸地裁判決 国勝訴  
(平成 年 月 日 原告控訴、 )

[浄化槽洗浄作業従事者に発症した精神障害は、長時間拘束や業務上の交通事故によって  
生じたものではないと判断された例]

キーワード：長時間拘束

1 事件の概要

[Redacted]

2 判決要旨

(1) 〈判断枠組み〉

[Redacted]

(2) 〈慢性ストレスの評価〉

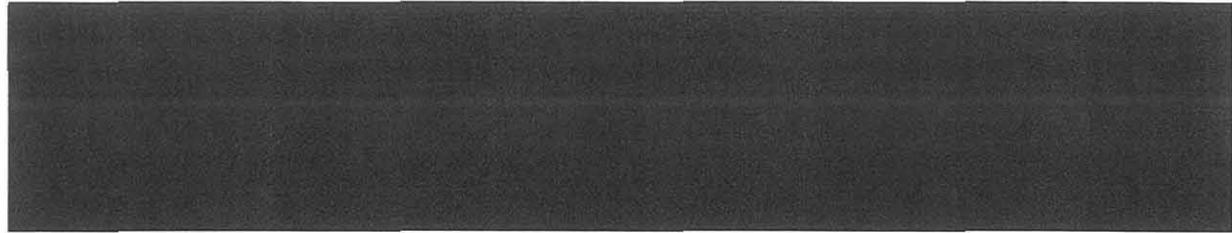
[Redacted]

(3) 〈判断基準となる労働者〉

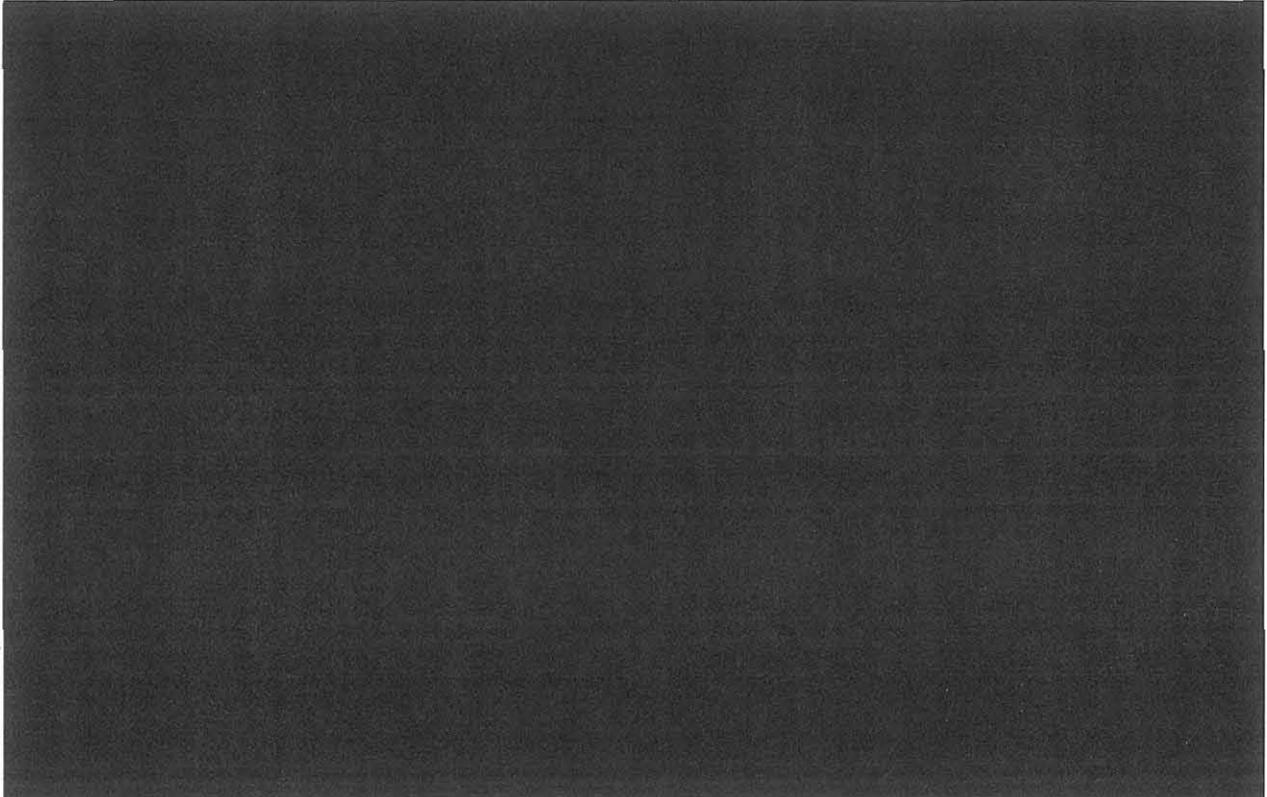
[Redacted]

(4) 〈出来事の評価期間〉

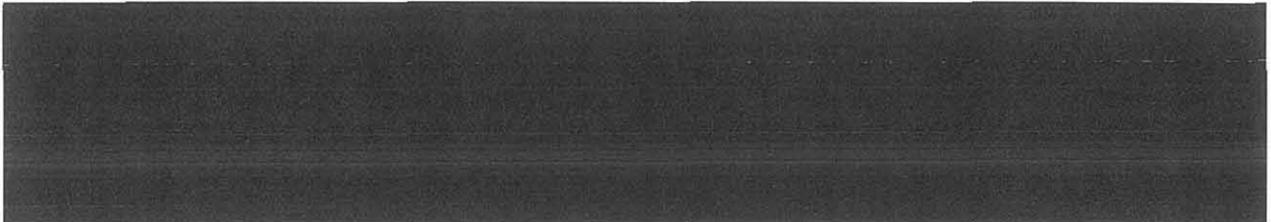
[Redacted]



(5) 〈心理的負荷〉



(6) 〈業務起因性〉



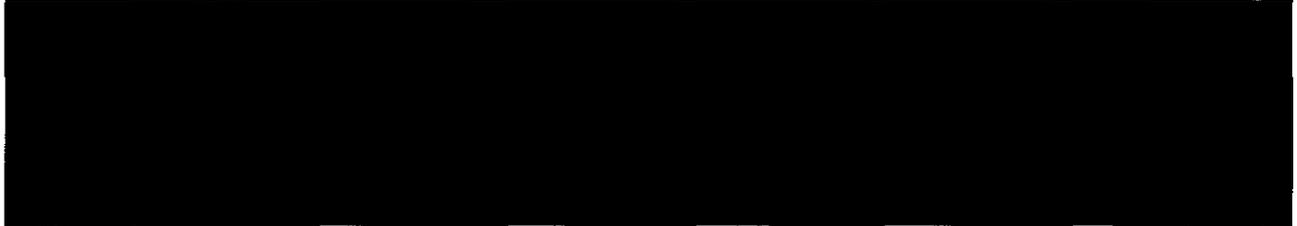
3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	勤務と勤務の間の空き時間の主張・立証	A large black rectangular redaction covering the content of the table.
2	洗管作業等の心理的負荷	

- [精神3] 平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国勝訴（控訴：平成■■年■■月■■日）  
[うつ病により自殺した亡夫の研究プロジェクト業務は過重ではなく、うつ病発症後は些細なことに過大に反応するとした例]

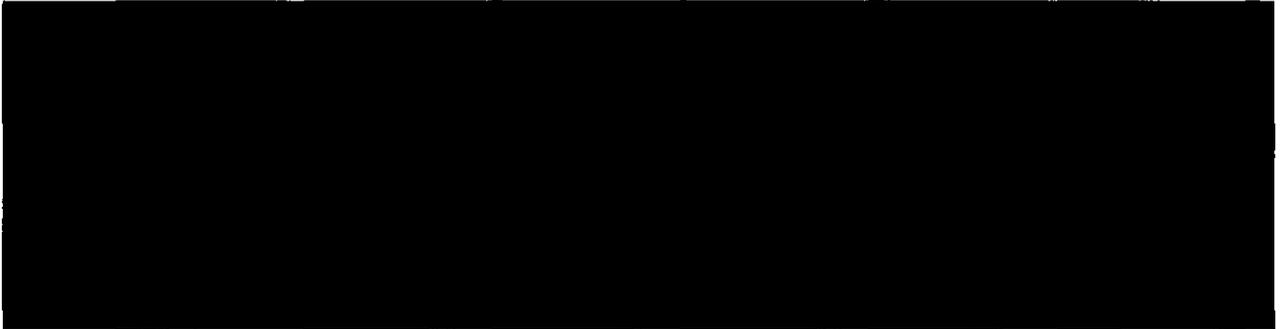
キーワード：発症後増悪考慮せず  
：複数回の単身赴任

## 1 事件の概要

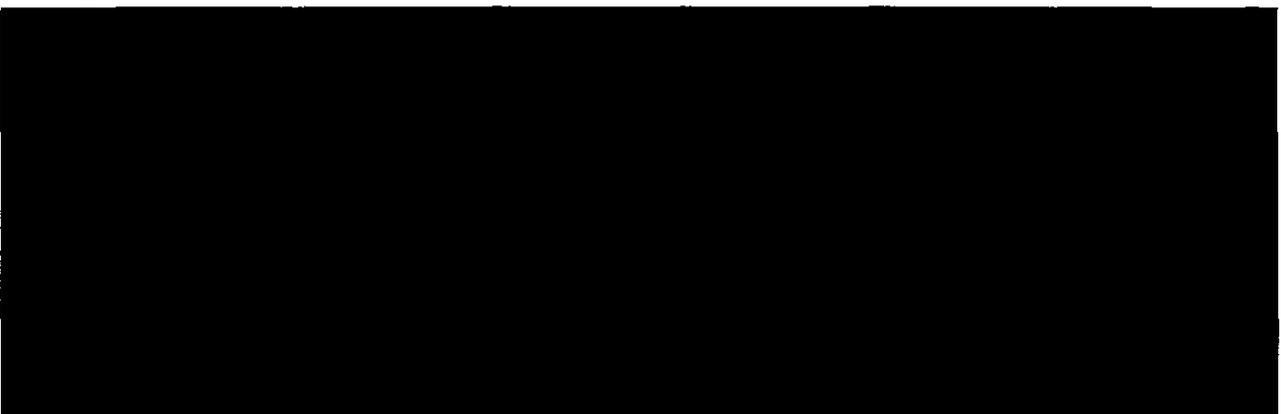


## 2 判決要旨

### (1) 〈判断枠組み〉

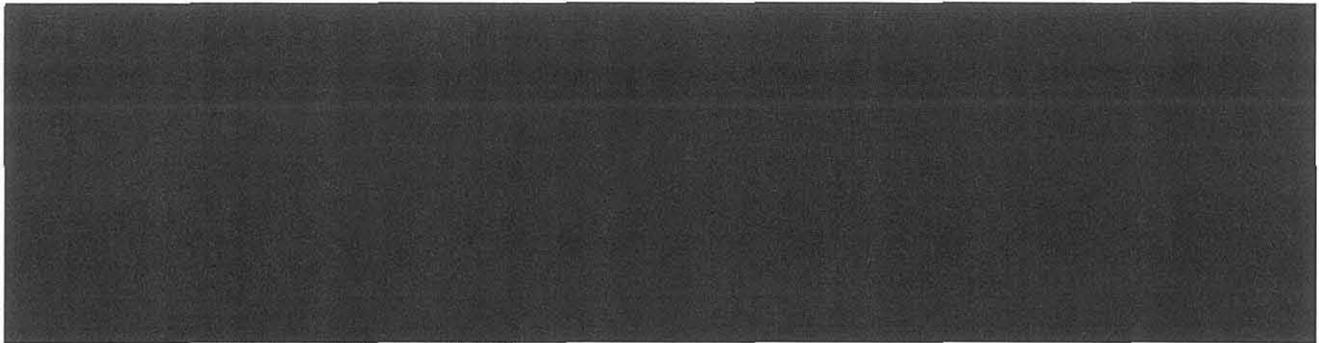


### (2) 〈発症時期〉

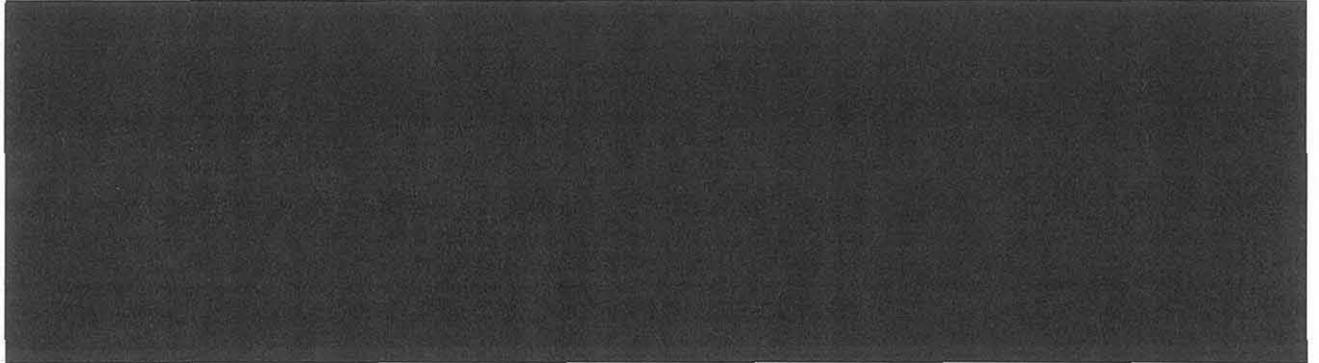


### (3) 〈業務起因性〉

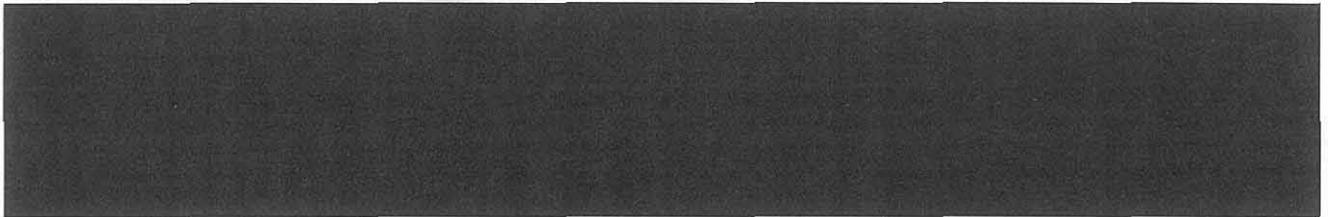




(4) 〈うつ病の増悪と業務との関係〉



(5) 〈個体側要因〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	過去の出向、単身赴任	
2	発病後の増悪	

4 訴訟遂行上の問題点

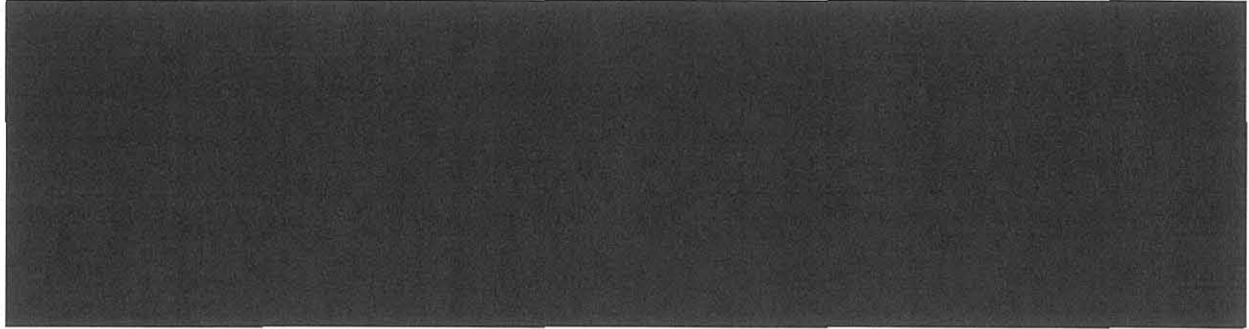
		問題点
1	発病時期	

○〔精神4〕平成■■年■■月■■日 神戸地裁判決 国勝訴確定

〔JR線車両脱線事故の救護業務に従事した看護師のPTSDの発症は、業務に起因するものとは認められないとされた例〕

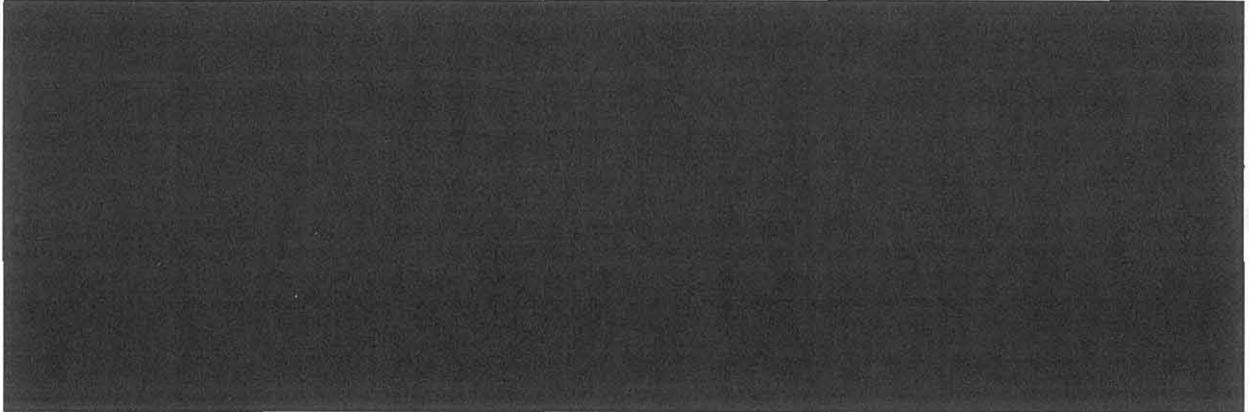
キーワード：車両脱線事故によるPTSD

## 1 事件の概要

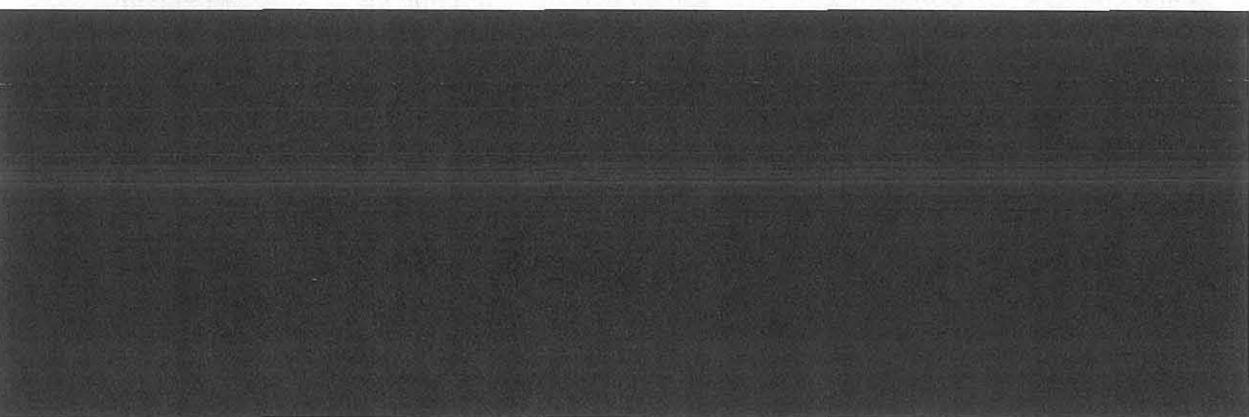


## 2 判決要旨

### (1) 〈PTSD発症の有無〉



### (2) 〈判断枠組み〉

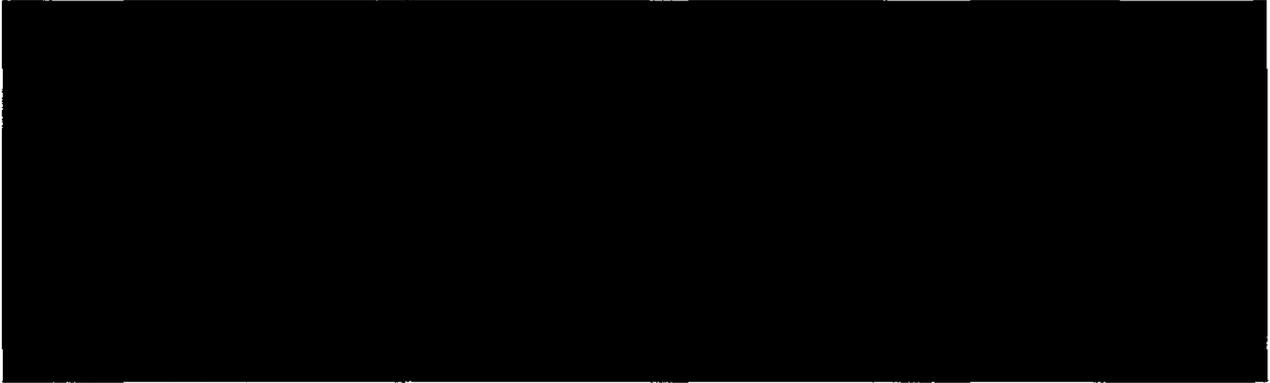


### (3) 〈判断基準となる労働者〉

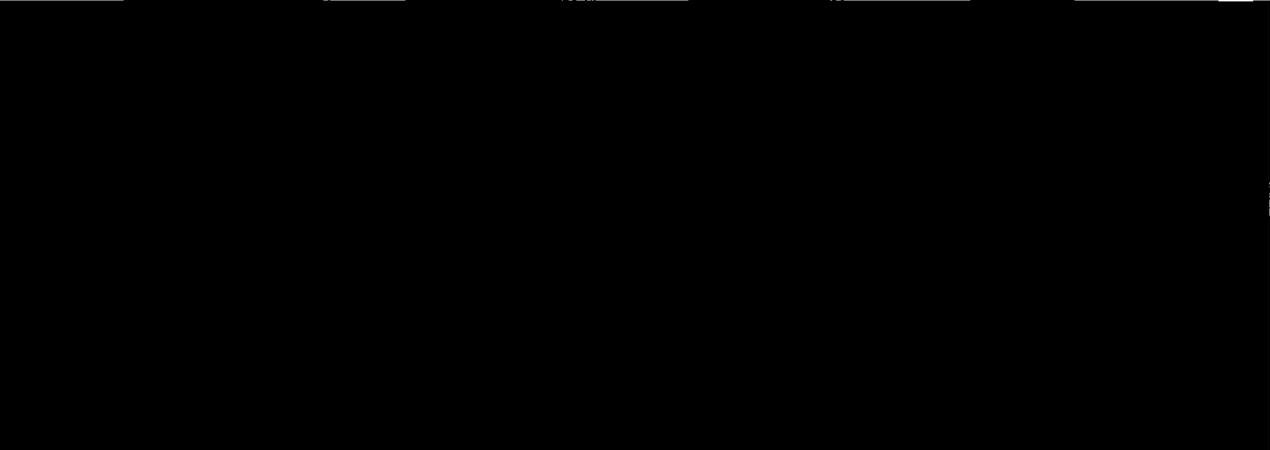


### (4) 〈発症前6か月の出来事〉





(5) 〈心理的負荷〉



(6) 〈業務起因性〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	当日の看護業務	A large black rectangular redaction covering the content of the table.
2	看護師としての経験	

○〔精神5〕平成■■年■■月■■日 大阪高裁判決 国勝訴確定  
(平成■■年■■月■■日 大阪地裁判決 国勝訴)

〔うつ病発症の主要な原因は、家庭内不和による精神的負荷であるとして、業務起因性を否定した例〕

キーワード：①家庭内不和 ②遺書（うつ病発症後）

## 1 事件の概要

[Redacted]

## 2 判決要旨

### (1) 〈判断枠組み〉

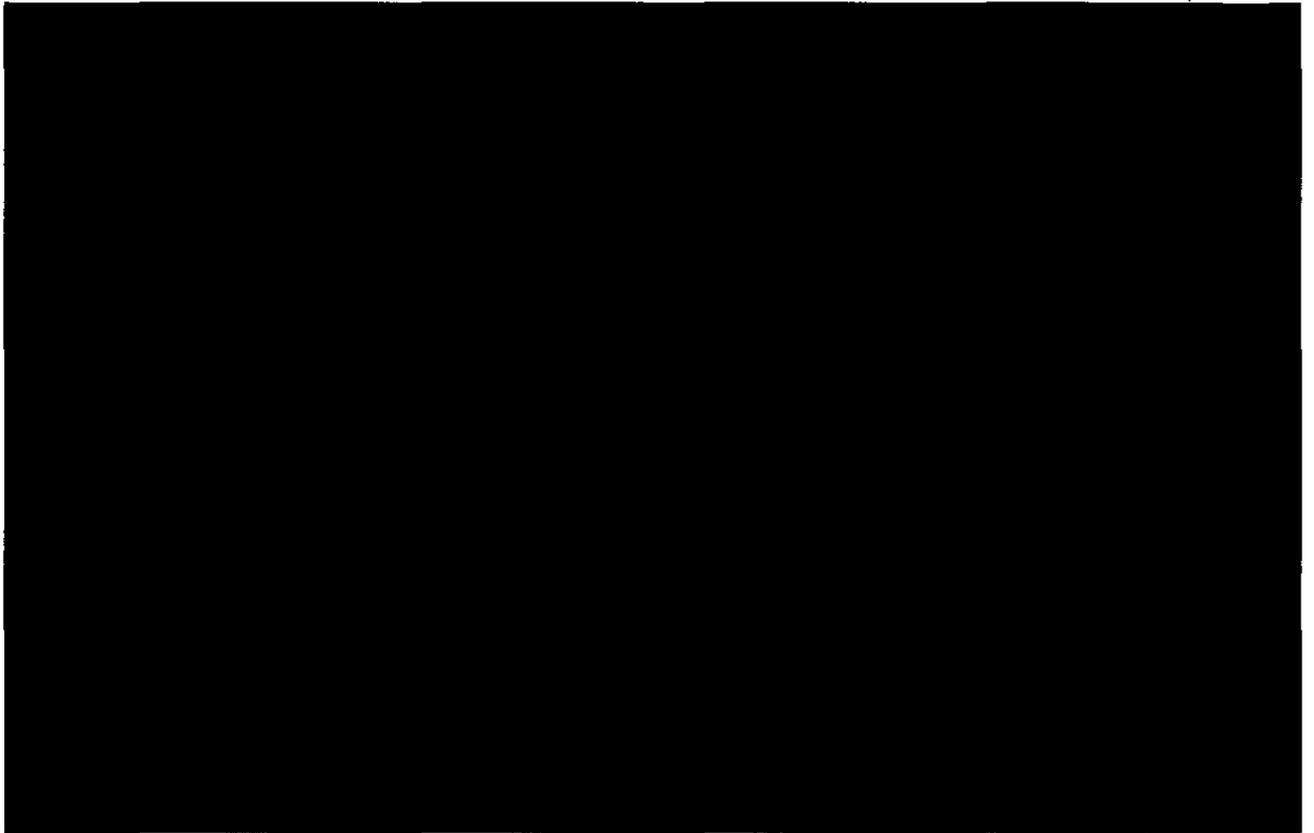
[Redacted]

### (2) 〈精神障害の発症〉

[Redacted]

### (3) 〈業務起因性〉

[Redacted]



3 勝訴要因

	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1 業務外の心理的負荷の主張・立証	
2 精神障害発症後の遺書	



○〔精神6〕平成 年 月 日 大阪地裁 国勝訴  
(平成 年 月 日 原告控訴、大阪高裁係争中)

〔精神障害発症の有無が争われているSEの自殺について、発症の有無を判断するまでもなく、業務による心理的負荷が過重でないので業務起因性がないとした例〕

キーワード：発症の有無と業務起因性

## 1 事件の概要

[Redacted content]

## 2 判決要旨

### (1) 〈判断枠組み〉

[Redacted content]

### (2) 〈判断指針の評価〉

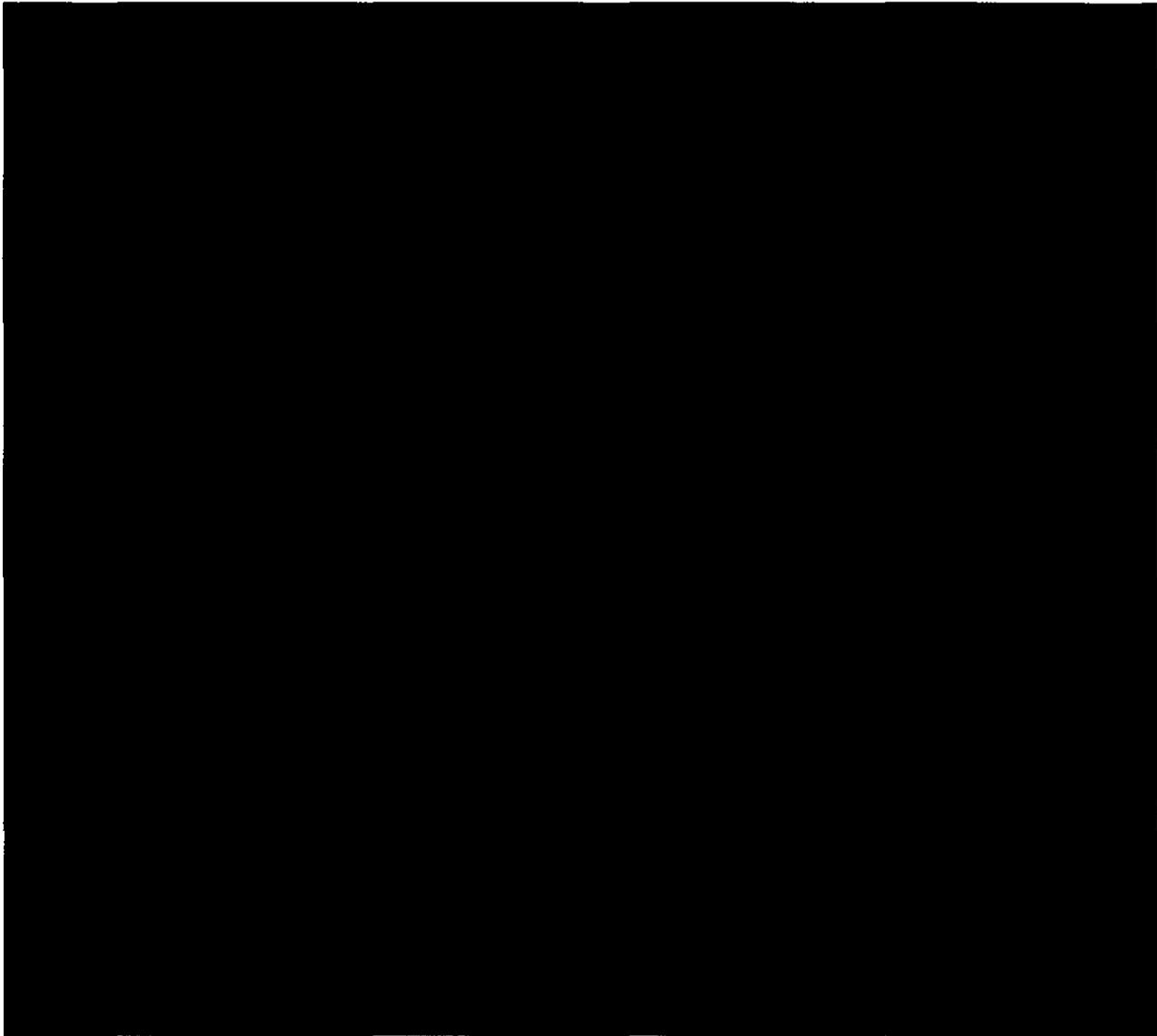
[Redacted content]

### (3) 〈業務の量的過重性〉

[Redacted content]

### (4) 〈業務の質的過重性〉

[Redacted content]



(5) 〈業務起因性〉



3 勝訴要因

	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
業務の質的 過重性	

- [精神7] 平成 年 月 日 最高裁 国勝訴
- (平成 年 月 日 東京高裁判決 国勝訴 (二審))
- (平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴 (一審))

[精神障害発症後の出来事を考慮しない二審判決に対して、最高裁が原告の上告受理申立を却下した例]

キーワード：発症後増悪考慮せず

1 事件の概要

[Redacted content]

2 最高裁上告受理申立ての不受理決定 (平成23年9月6日)

[Redacted content]

3 判決要旨 [東京高裁]

(1) <判断枠組み>

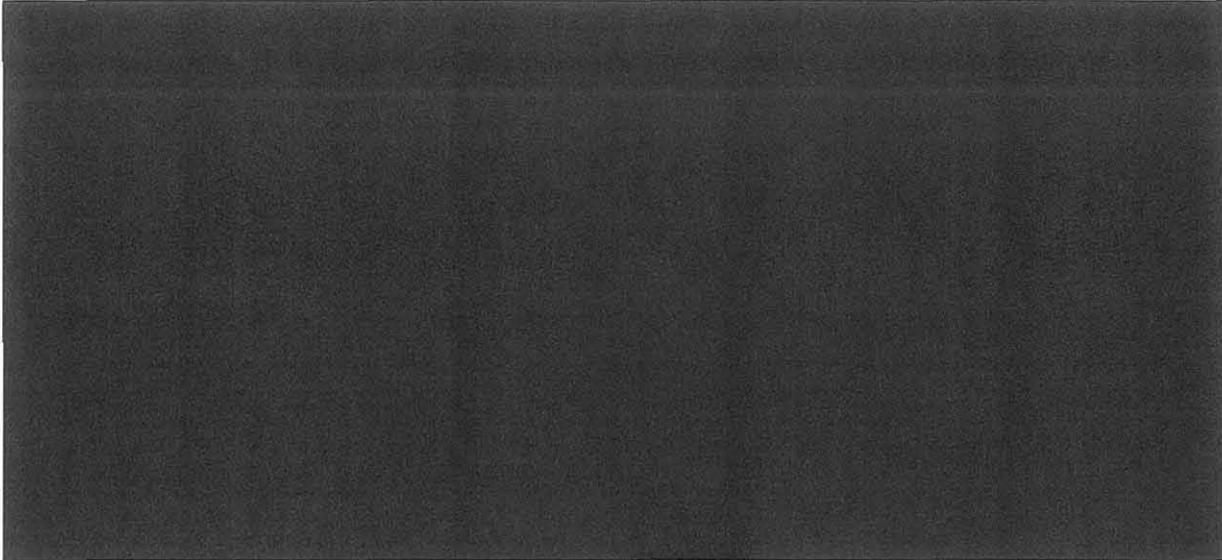
[Redacted content]

(2) <発症時期>

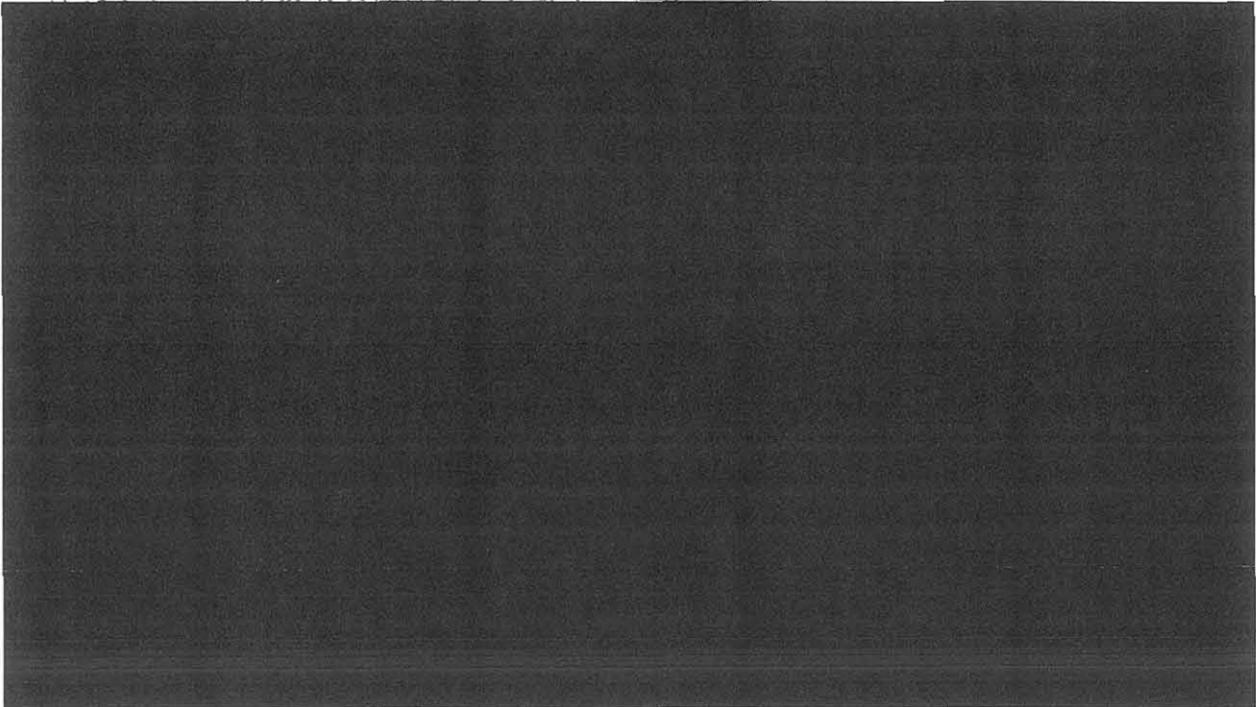
[Redacted content]

(3) <業務過重性>

[Redacted content]



(4) 〈精神障害の悪化と自殺との相当因果関係〉



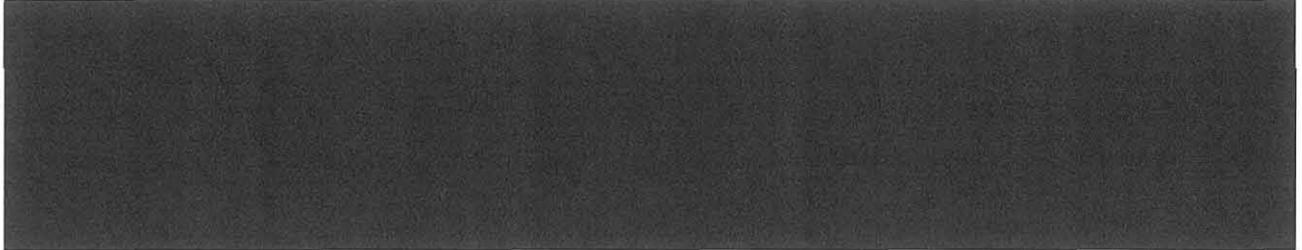
4 控訴審においても勝訴した要因分析

	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1 精神障害の悪化と自殺との相当因果関係	
2 転籍及びその後の業務内容	

- 〔精神8〕平成■■■年■■■月■■■日 横浜地裁判決 国勝訴 一審確定  
〔DSM-IV-TRの診断基準に基づいて精神障害を発症していないとした例〕

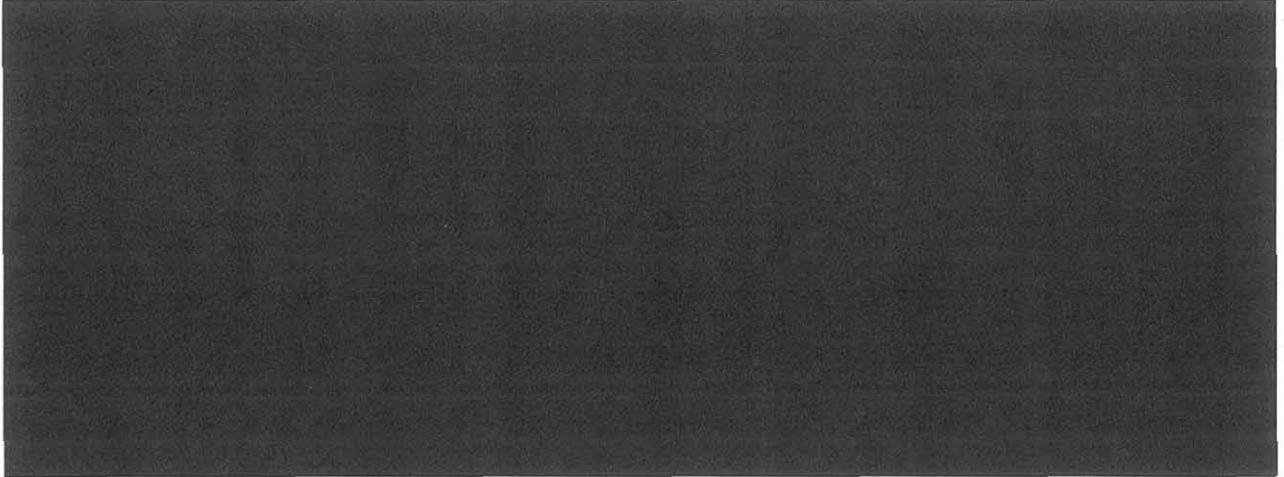
キーワード：精神障害の発症なし  
：DSM-IV-TRの診断で発病なし

1 事件の概要

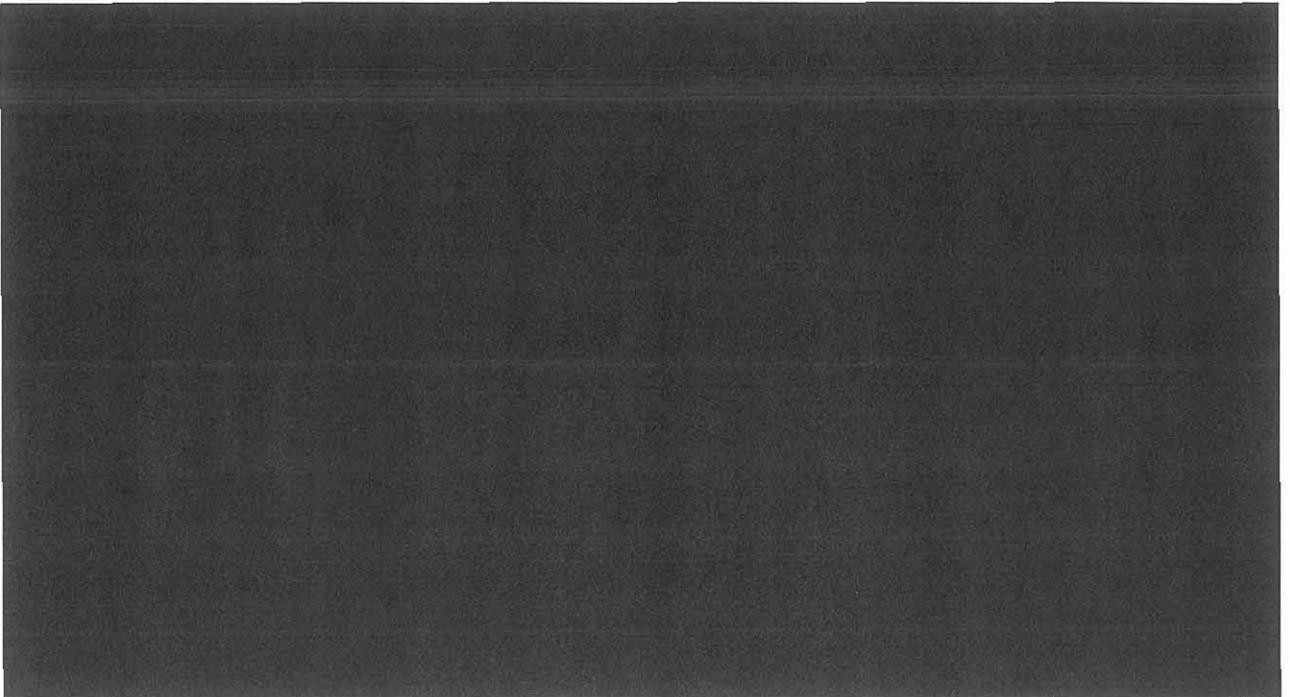


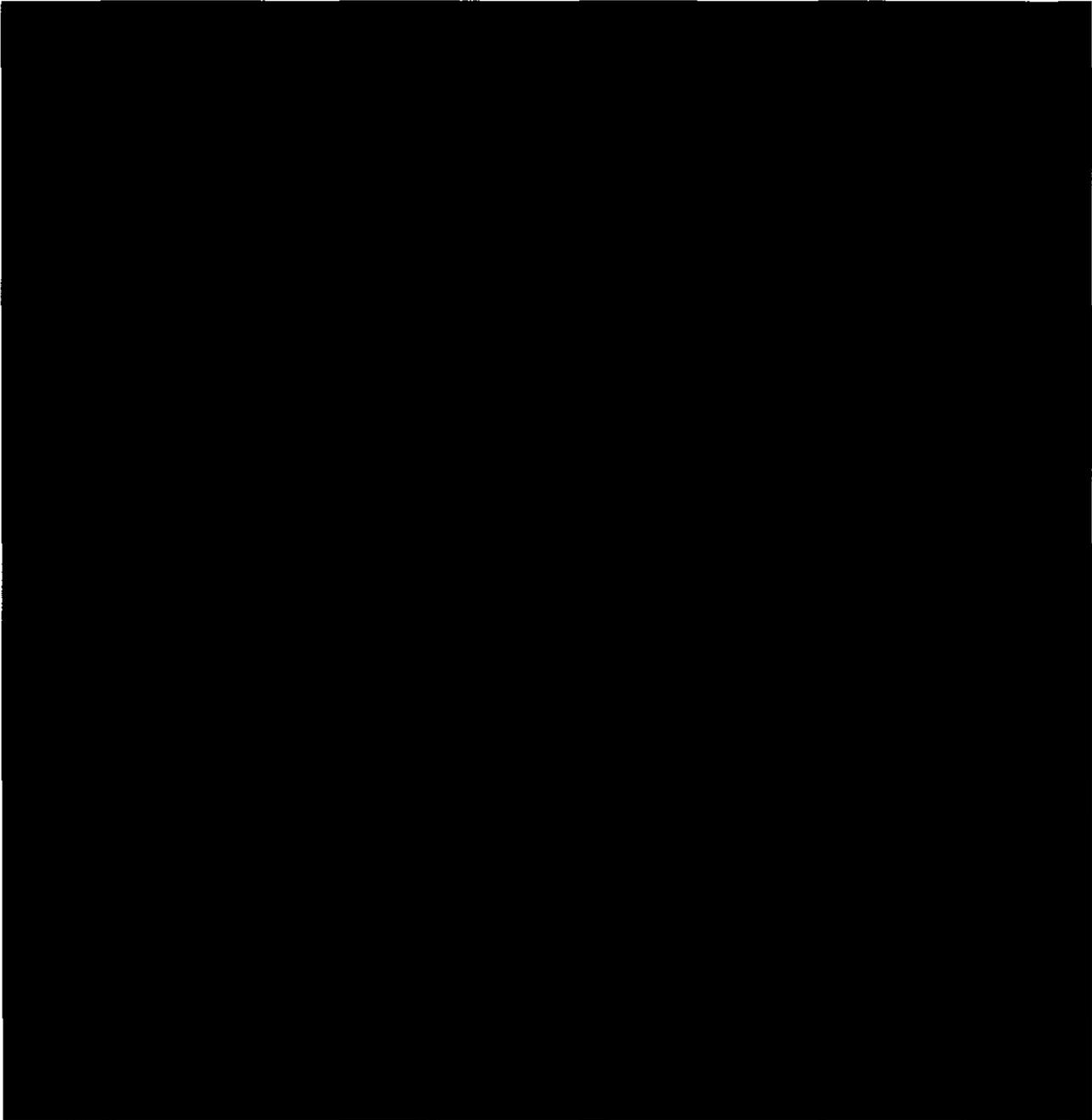
2 判決要旨〔横浜地裁〕

(1) 〈判断枠組み〉



(2) 〈精神障害の発症（有無）〉





3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	精神障害を発症していないことを主張	
2	一貫して精神障害に罹患していないことを主張	

- [精神9] 平成 年 月 日 東京高裁判決 国勝訴（二審）  
（平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴（一審））
- ・ [出来事が複数ある場合について、判断指針はそれらの相互関係等も評価しているとして、棄却した例]
  - ・ [発症後の出来事に客観的に精神障害を発症させる負荷がある場合には相当因果関係があるとしつつも、業務起因性を否定した例]

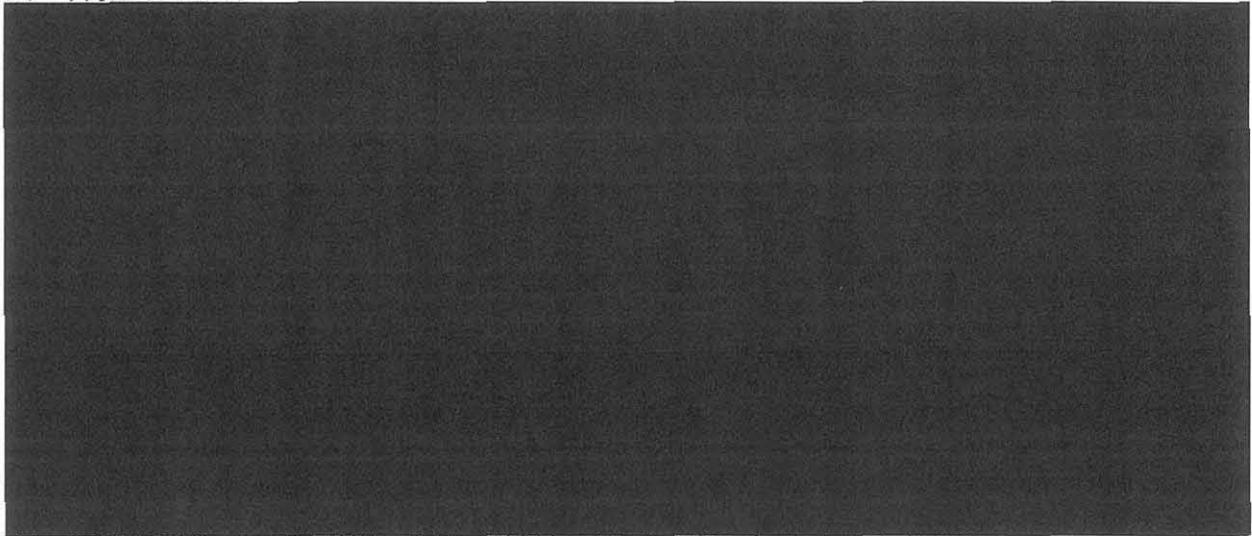
キーワード：複数の出来事の考慮

1 事件の概要



2 判決要旨〔東京高裁〕

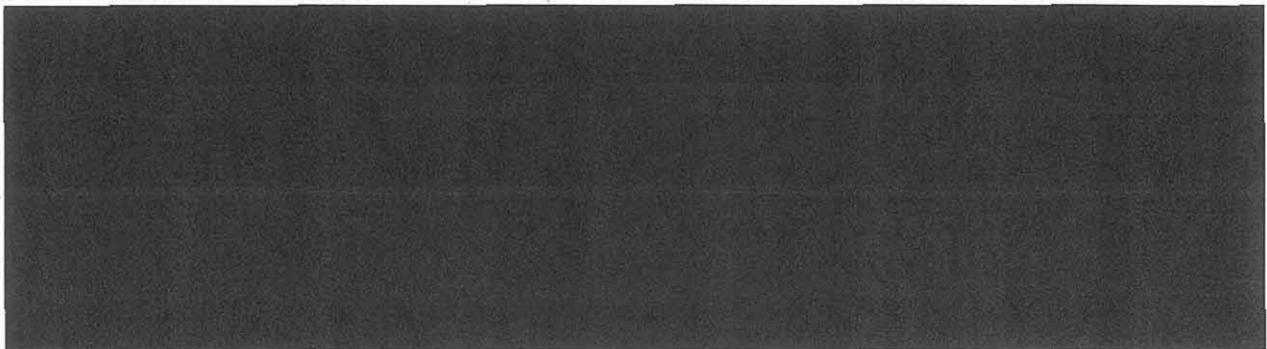
(1) 〈判断枠組み〉



(2) 〈発症時期〉〔一審引用。但し点線は二審で一審に加えられた箇所〕

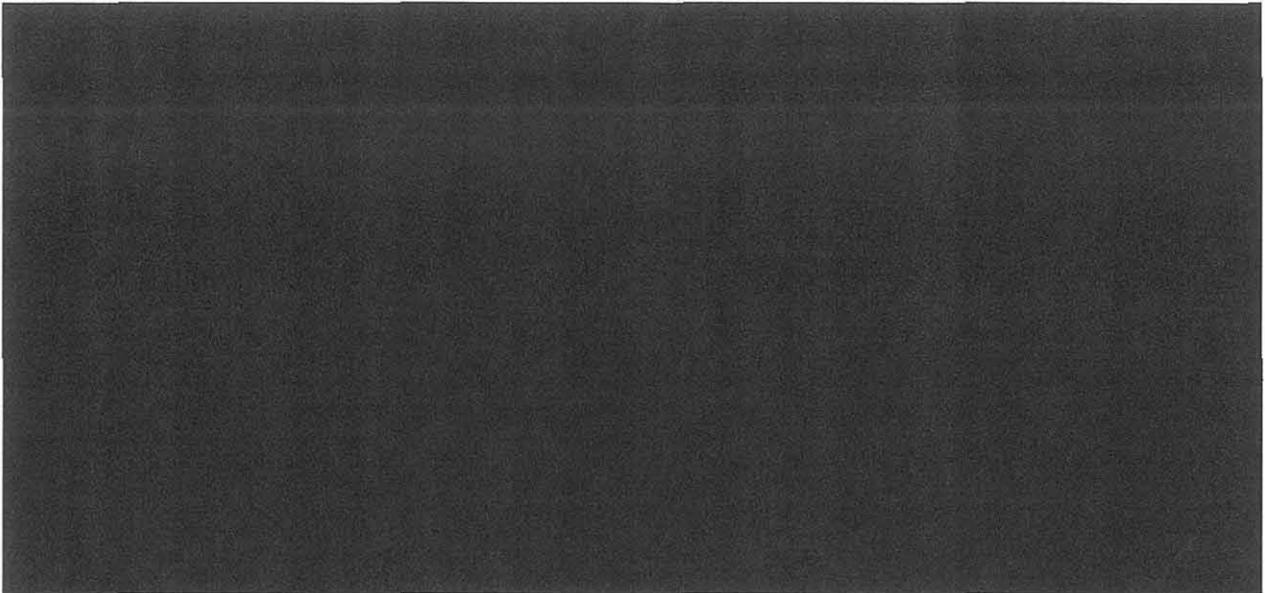


(3) 〈複数の出来事の評価〉

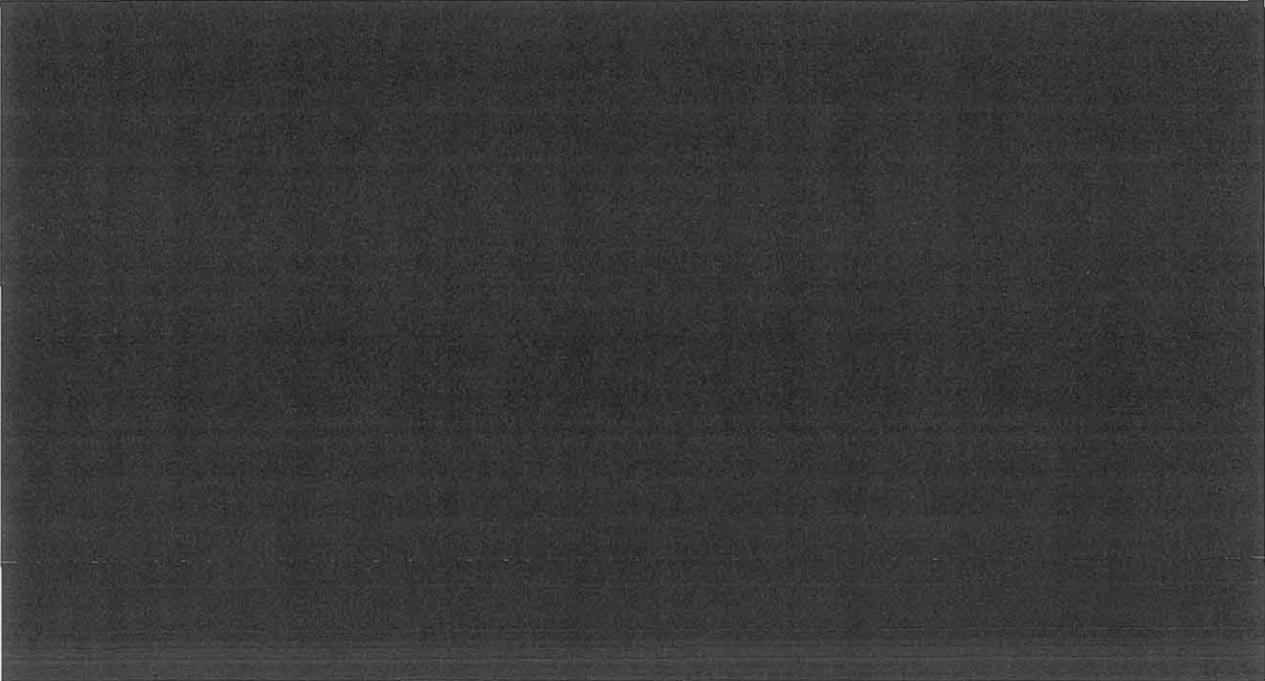


(4) 〈発症後増悪の出来事評価〉





(5) 〈業務による心理的負荷〉



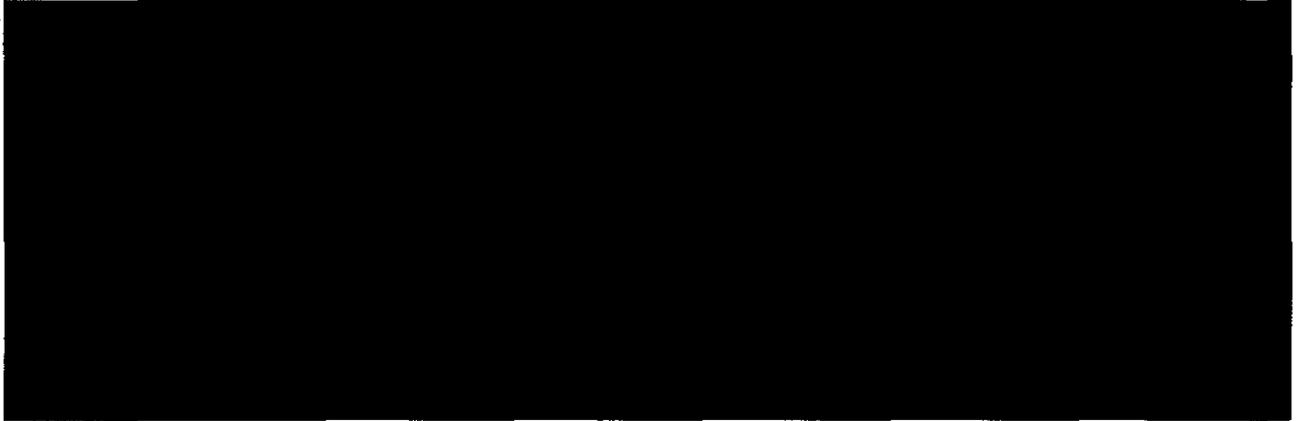
3 控訴審においても勝訴した要因分析

	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1 発症前後の出来事評価	
2 複数の出来事評価	

○〔精神1〕平成■■年■■月■■日 広島地裁判決 国敗訴 一審確定  
〔建設工事現場の工事事務所長が、工事の遅れ、工事のミス等の後の自殺未遂に業務起因性を認めた例〕

キーワード：土下座

## 1 事件の概要

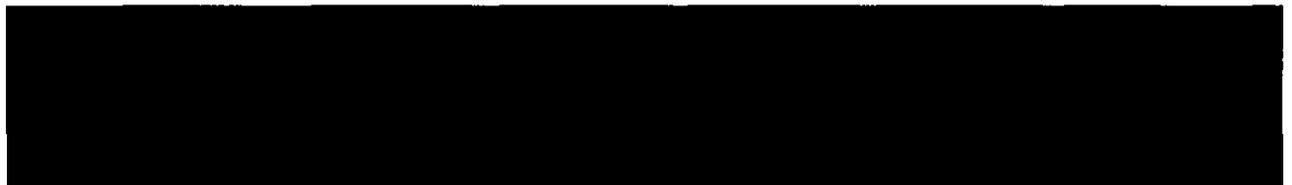


## 2 判決要旨

(1) <判断枠組み>



(2) <工事の遅れ、長時間労働>



(3) <重大な工事ミス（主筋切断ミス）>



(4) <発注者からの叱責>



(5) <業務起因性>



(6) <双極性感情障害>



3 国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	時間外労働時間		
2	重大な工事ミス		
3	発注者からの叱責		

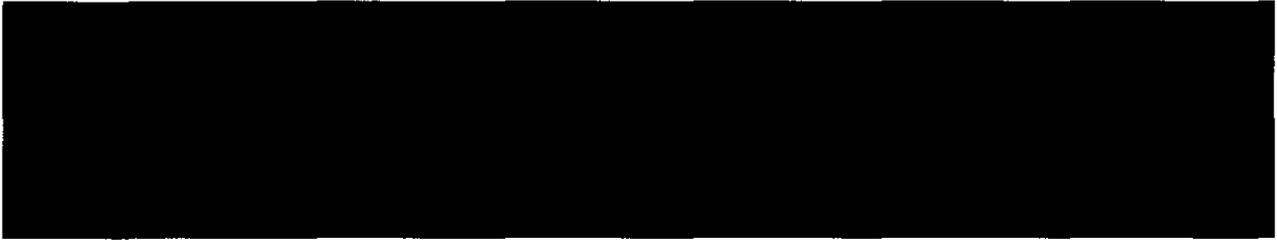
4 敗訴の要因分析

		敗訴した要因として考えられる事項
1	労働時間調査が不十分であったこと	
2	寛解または治ゆの検討	

- [精神2] 平成■■年■■月■■日 名古屋地裁判決 国敗訴、一審確定  
[約1年8か月のうつ病治療中断中もうつ病は寛解していなかったとして、自殺の8年前に発症したうつ病について業務起因性を肯定した例]

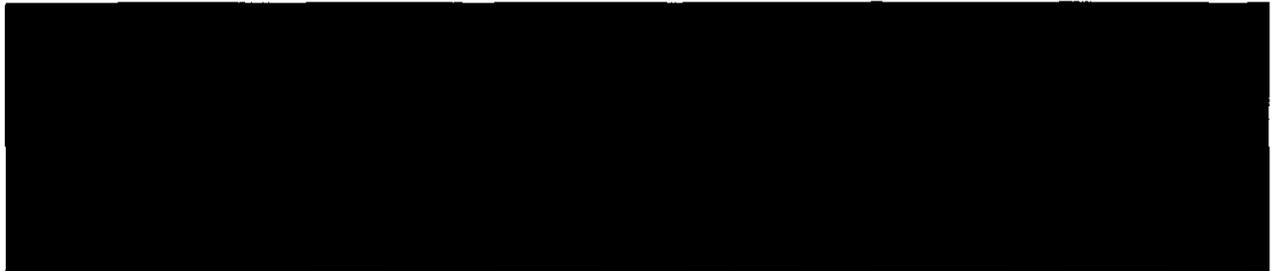
キーワード：①うつ病の寛解の有無

## 1 事件の概要

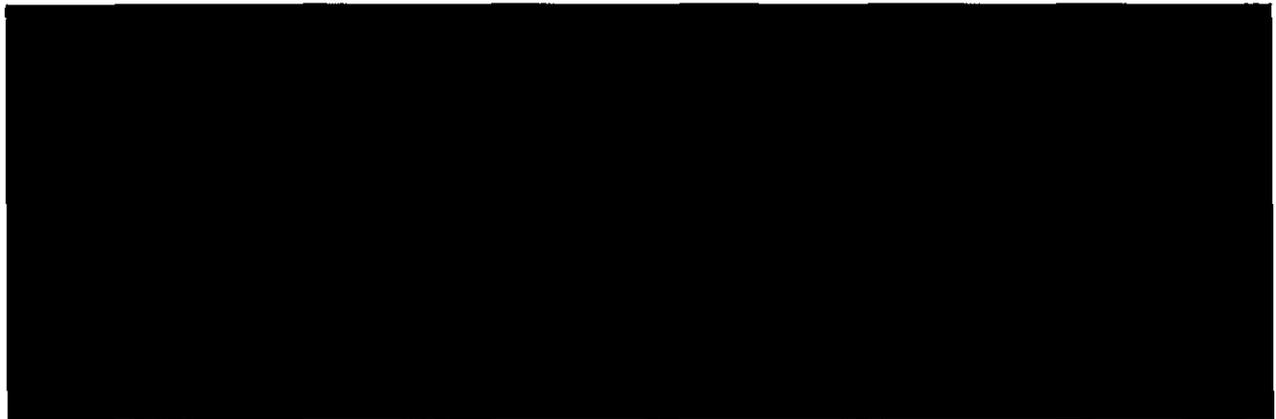


## 2 判決要旨

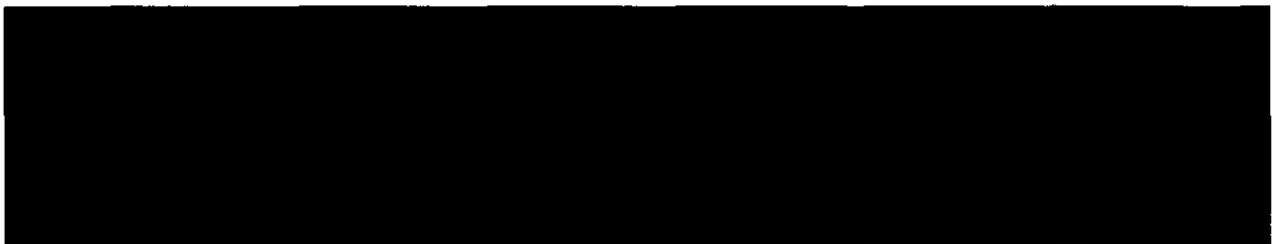
### (1) 〈判断枠組み〉



### (2) 〈平成6年11月に発症したうつ病の業務起因性〉



### (3) 〈うつ病の寛解の有無〉



### (4) 〈業務起因性〉



## 3 国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	平成6年11月に発症したうつ病の業務起因性		
2	うつ病の寛解の有無		

4 敗訴した要因分析

		敗訴した要因と考える事項
1	平成6年11月に発症したうつ病の業務起因性	

【平成23年度敗訴判決】

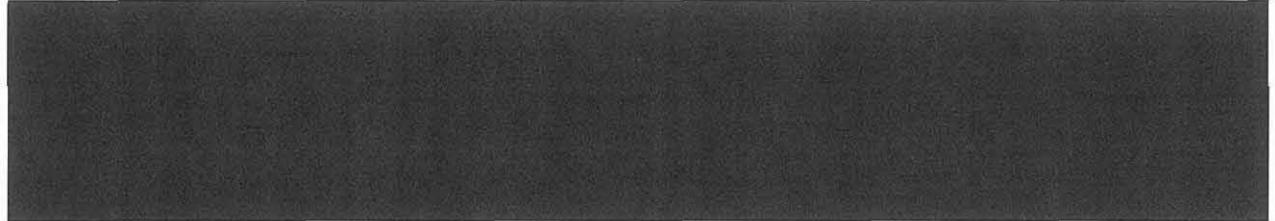
○〔精神3〕平成 年 月 日 大阪高裁判決 国敗訴 確定

〔平成 年 月 日 大阪地裁判決 国敗訴 国控訴〕

〔専門学校の新任講師が、長時間労働、海外引率業務や学園長からの叱責等の後に発症した精神障害に業務起因性を認めた例〕

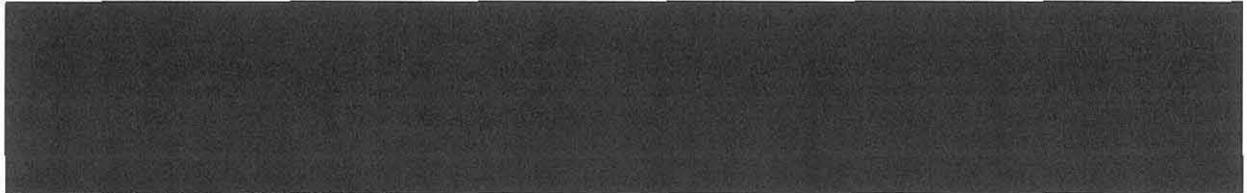
キーワード：持ち帰り残業、叱責

## 1 事件の概要

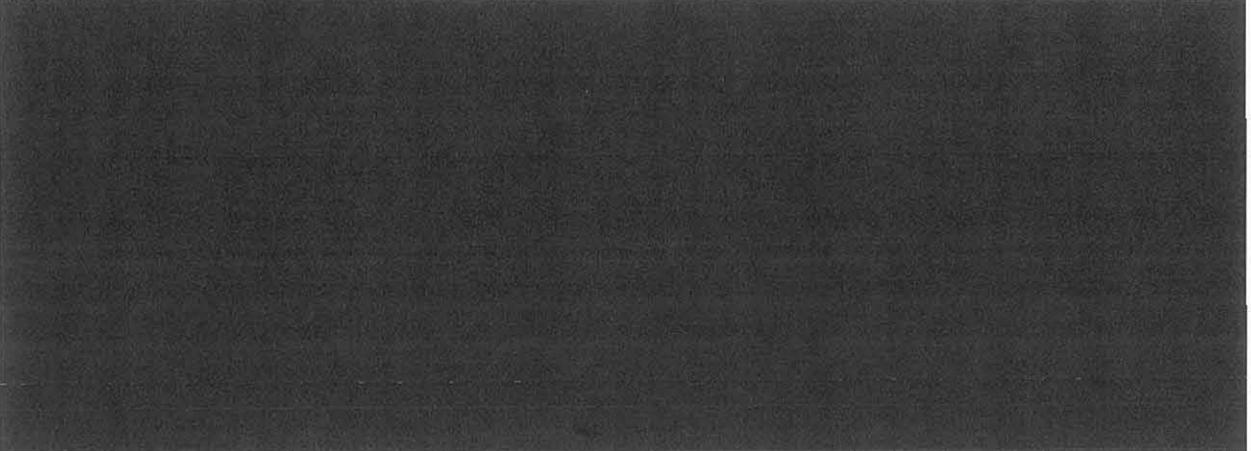


## 2 控訴審判決要旨〔大阪高裁〕

### (1) 〈判断枠組み〉



### (2) 〈心理的負荷の強度の評価〉

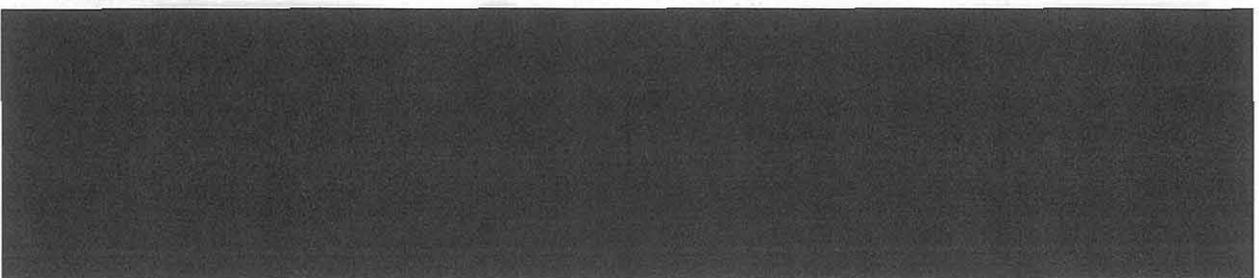


### (3) 〈業務起因性〉

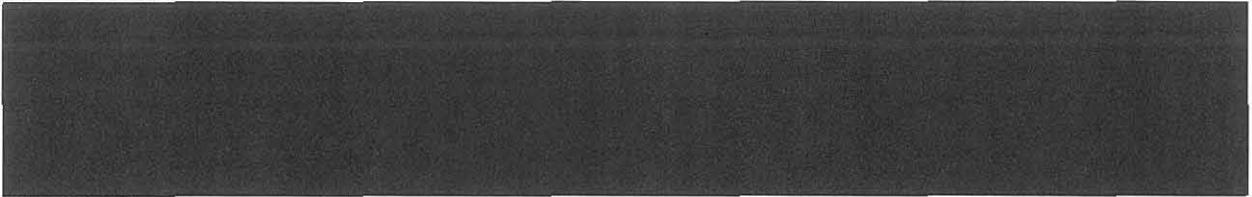


## 3 一審判決要旨〔大阪地裁〕

### (1) 〈時間外労働〉



(2) 〈持ち帰り残業〉



(3) 〈叱責〉



(4) 〈業務起因性〉



4 国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	時間外労働時間		
2	海外引率業務		
3	学園長からの叱責		

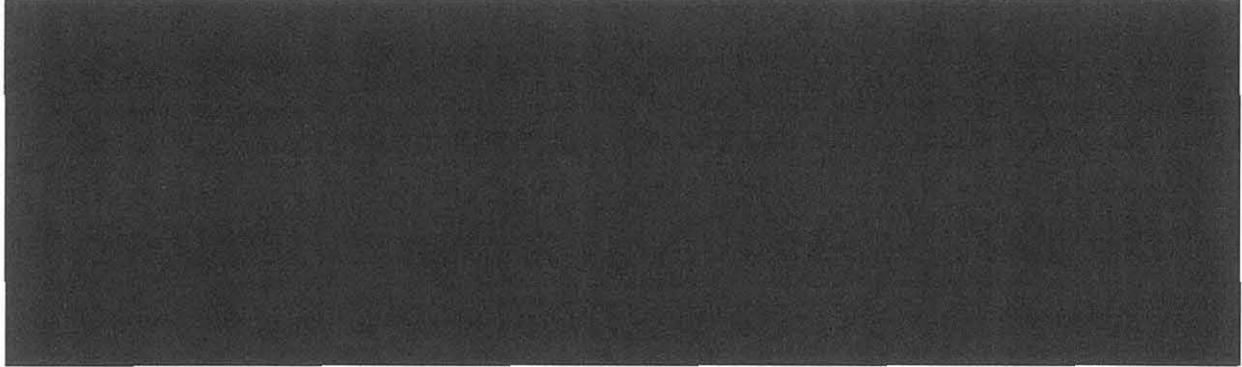
5 控訴審においても敗訴した要因分析

	国の主張が認められなかった要因
証拠の収集	

- [脳心1] 平成■■年■■月■■日 長野地裁判決 国勝訴、■■■■■  
[業務以外の発症因子が認められない若年労働者の突然死について、健常人にも原因不明の突然死があるとして、業務起因性を認めなかった例]

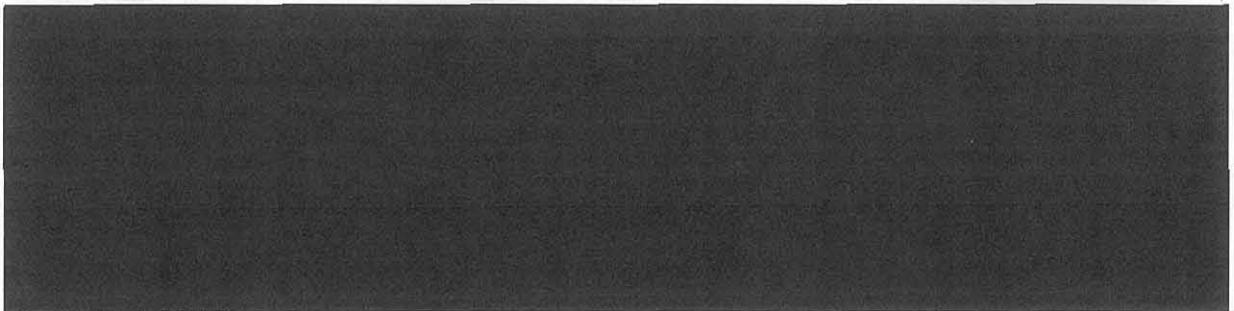
キーワード：業務以外の発症因子が認められない若年労働者の突然死

1 事件の概要

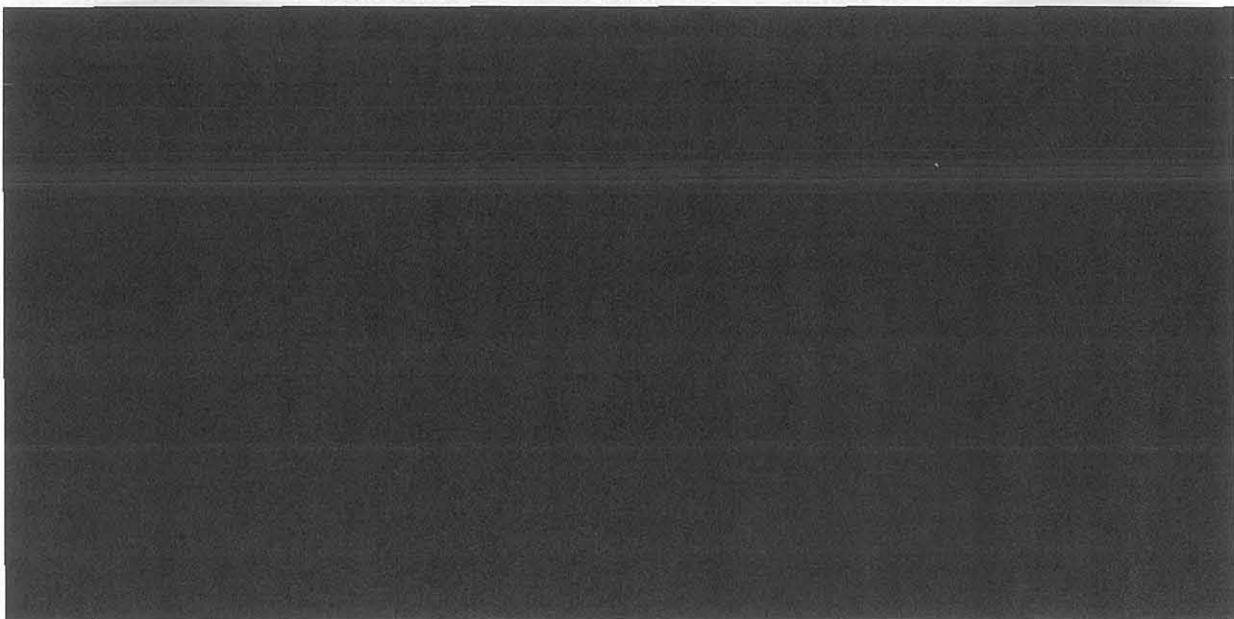


2 判決要旨

(1) 〈判断枠組み〉

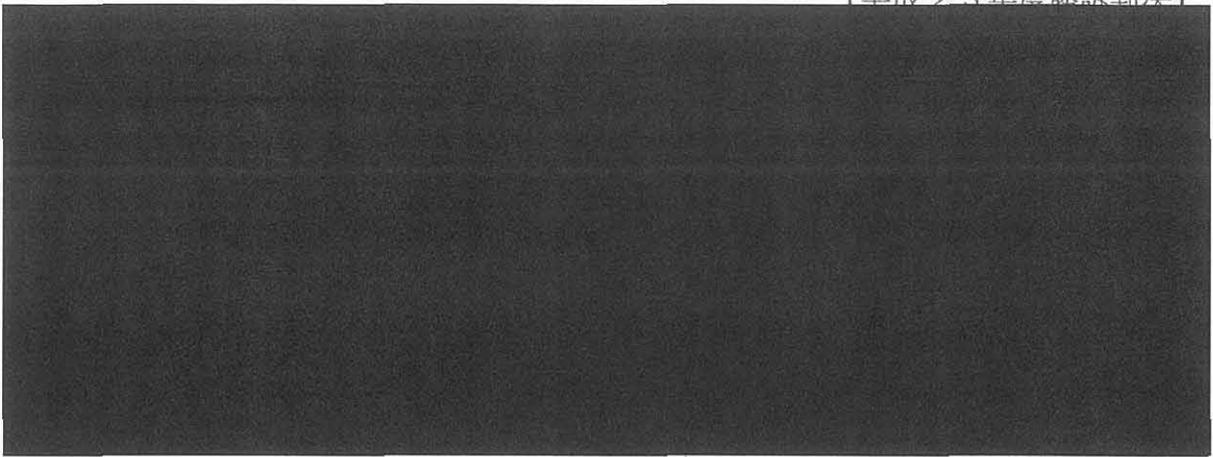


(2) 〈質的過重性〉

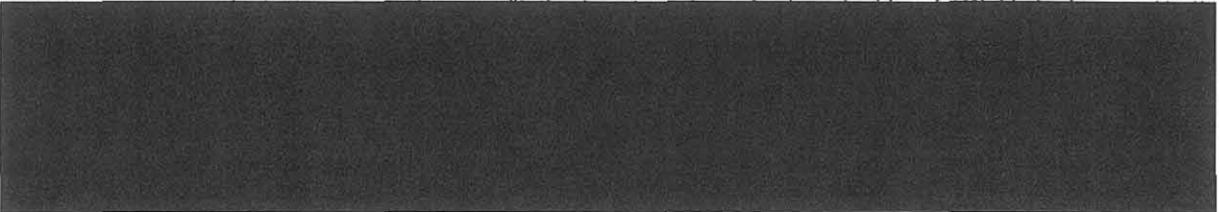


(3) 〈量的過重性〉

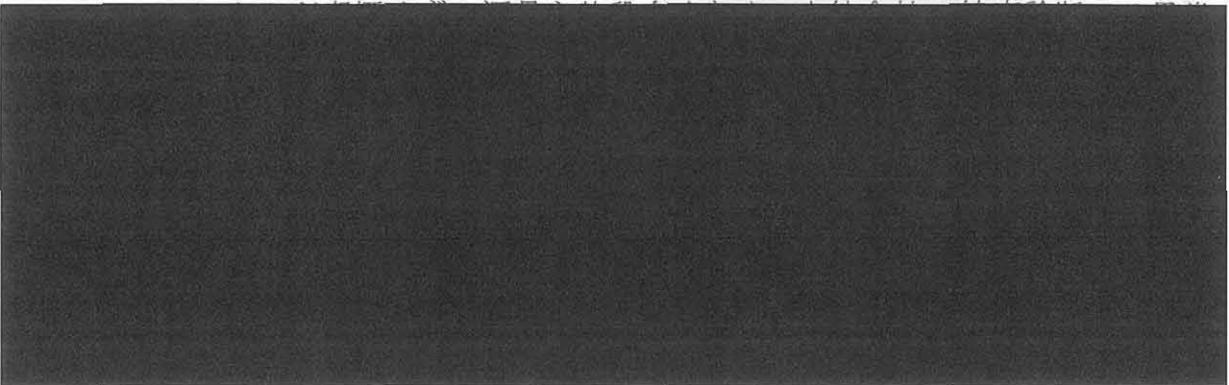




(4) 〈業務起因性〉



(5) 〈業務以外の発症因子〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	業務の過重性	

○〔脳心2〕平成■■年■■月■■日 大阪高裁判決 国勝訴、確定  
(平成■■年■■月■■日 大阪地裁判決 国勝訴)

[スーパー店課長代行の労働時間数は、会社管理のIDレコーダーに基づき算出された労働時間であり、自宅に持ち帰った仕事の労働時間を認めなかった例]

キーワード：①労働時間管理システム (IDレコーダー)  
②持ち帰り残業

1 事件の概要

[Redacted content]

2 判決要旨

(1) 〈判断枠組み〉

[Redacted content]

(2) 〈時間外労働時間〉

[Redacted content]

(3) 〈労働時間の管理〉

[Redacted content]

[Redacted]

(4) 〈持ち帰り仕事〉

[Redacted]

(5) 〈業務の質的過重性〉

[Redacted]

(6) 〈本件疾病の発症原因〉

[Redacted]

(7) 〈控訴人の新たな主張〉〔控訴審〕

[Redacted]

3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	会社の労働時間管理のシステム	[Redacted]
2	持ち帰り仕事	[Redacted]

○〔脳心3〕平成 年 月 日 大阪地裁判決 国勝訴  
(平成 年 月 日 原告控訴、 )

[心筋梗塞により死亡した大手製鉄業研究所の主任研究員の国内出張に伴う移動時間は、  
労働時間とは認められないとした例]

キーワード：出張に伴う移動時間、出張回数

1 事件の概要

[Redacted]

2 判決要旨

(1) 〈判断枠組み〉

[Redacted]

(2) 〈業務の量的過重性〉

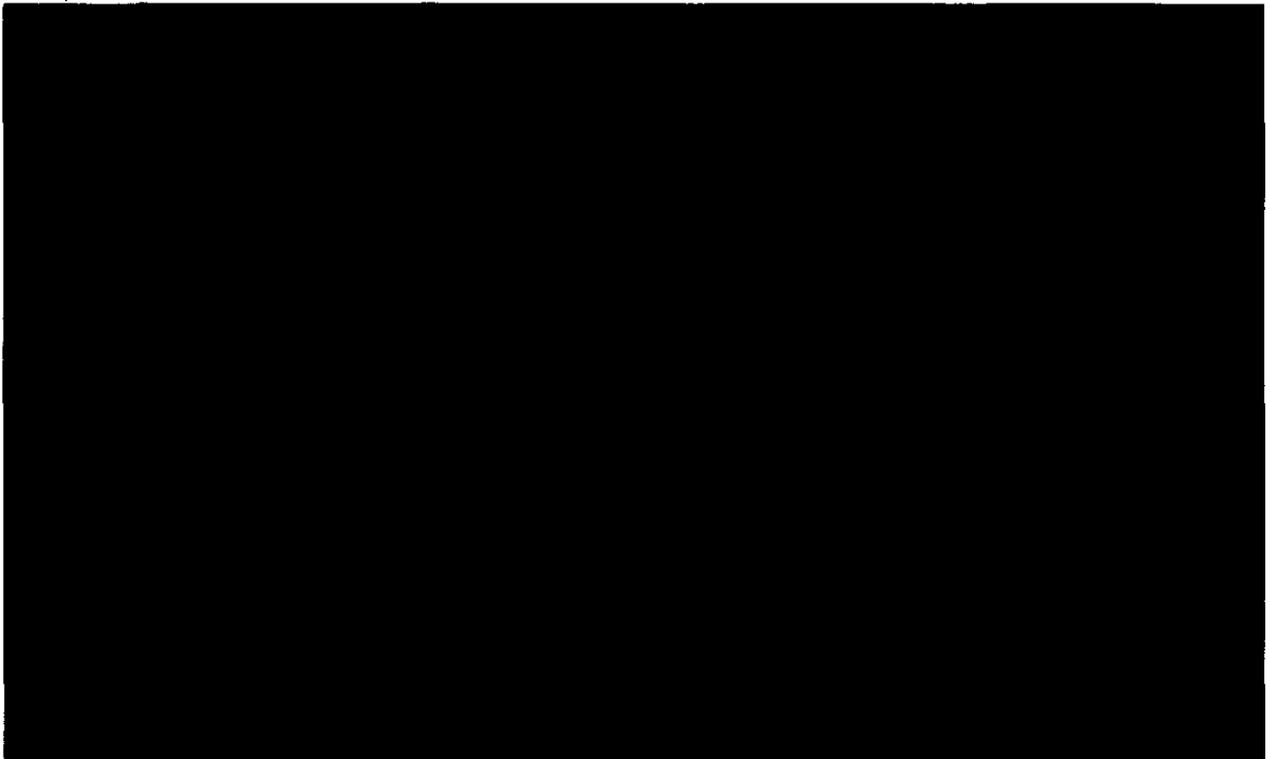
[Redacted]

(3) 〈出張時における移動時間〉

[Redacted]

(4) 〈業務の質的過重性〉

[Redacted]



(5) 〈本件疾病の発症原因〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	出張時における移動時間	
2	業務の過重性	
3	医学意見書（ブルガダ症候群）	

○〔脳心4〕平成■■年■■月■■日 大阪地裁判決 国勝訴  
(平成■■年■■月■■日 原告控訴、大阪高裁係争中)

[くも膜下出血を発症した新聞記者の休日取材頻度は不明であり、取材の出張に伴う移動時間は、労働時間とは認められないとした例]

キーワード：休日の取材活動、出張の移動時間

## 1 事件の概要

[Redacted]

## 2 判決要旨

### (1) 〈判断枠組み〉

[Redacted]

### (2) 〈休日の取材業務〉

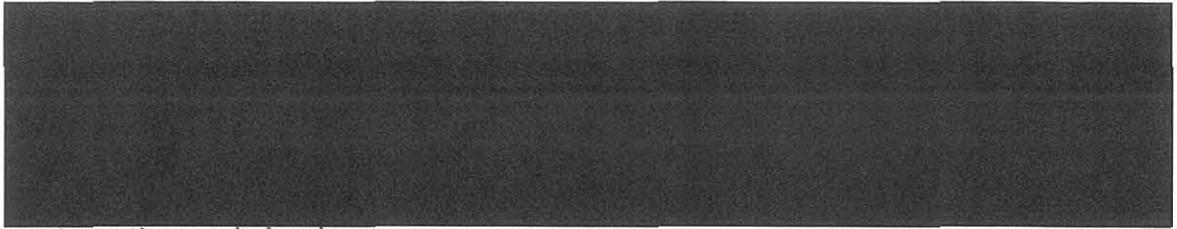
[Redacted]

### (3) 〈出張時の移動時間〉

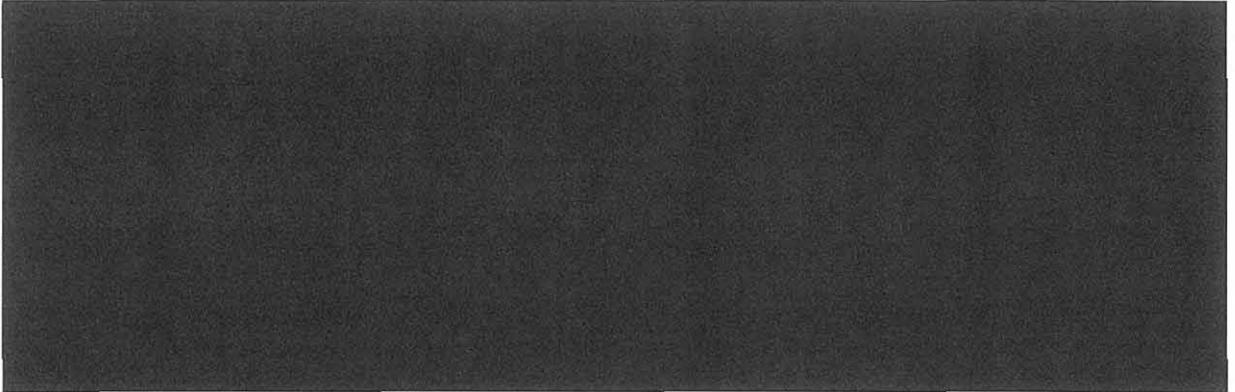
[Redacted]

### (4) 〈業務の量的過重性〉

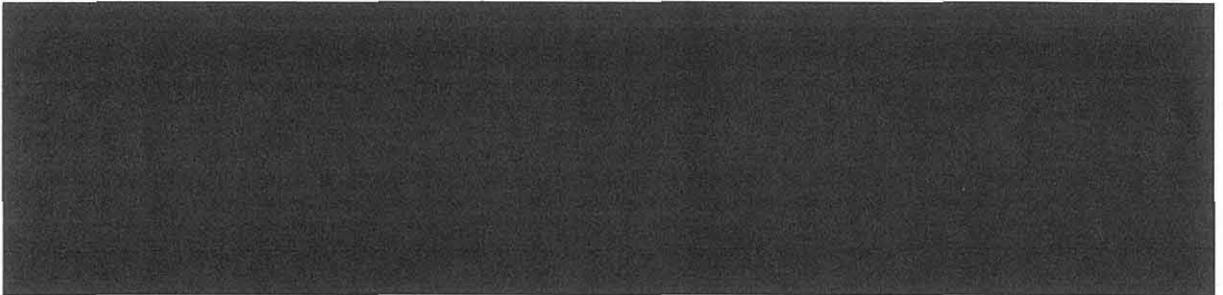
[Redacted]



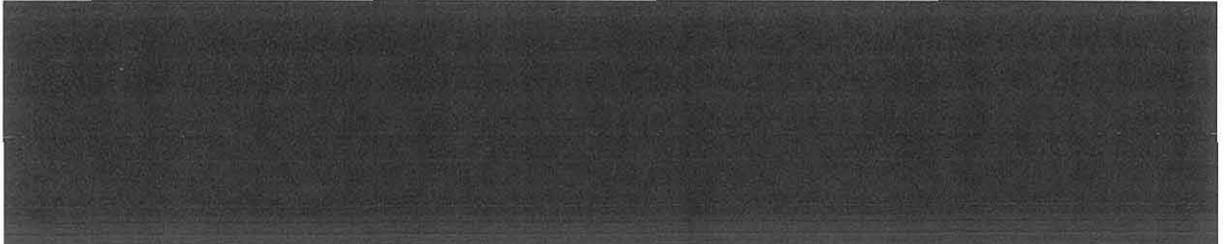
(3) 〈リスクファクター〉



(4) 〈業務以外の要因の影響〉



(5) 〈本件疾病の発症原因〉



3 勝訴要因

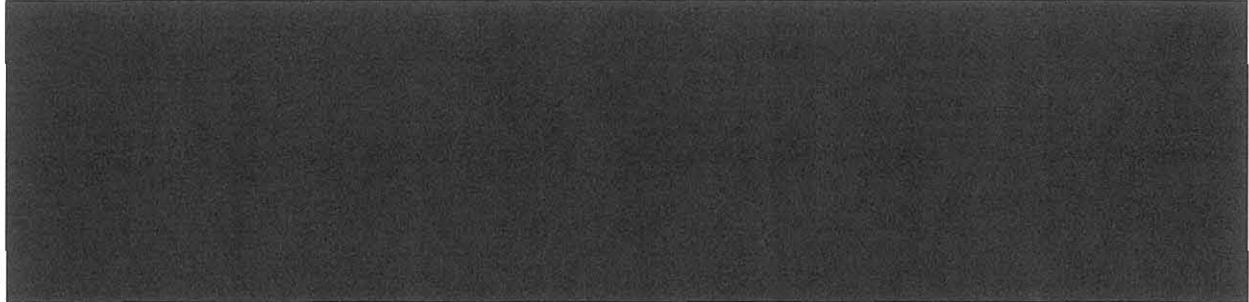
		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	休日の取材業務	[Redacted]
2	出張における移動時間	

- [脳心1] 最高裁：平成 年 月 日 上告不受理決定  
〔控訴審：平成 年 月 日 名古屋高裁判決 国逆転敗訴〕  
〔一審：平成 年 月 日 名古屋地裁判決 国勝訴〕

[心疾患の障害を有する者の死亡の業務起因性を認めた高裁判決に対して最高裁が国の上告を不受理とした例]

キーワード：心臓機能障害を有する労働者の過重性

1 事件の概要



2 最高裁上告受理申立ての不受理決定（国）（平成 年 月 日）

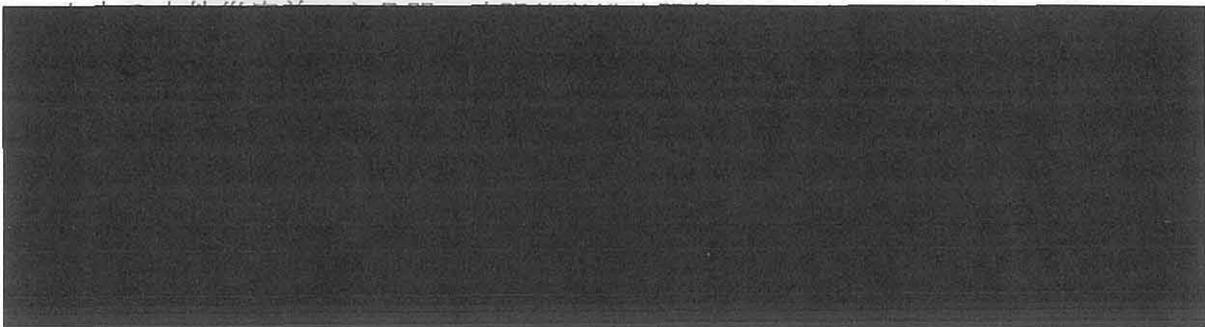


3 第一審判決要旨（国勝訴）（平成 年 月 日）

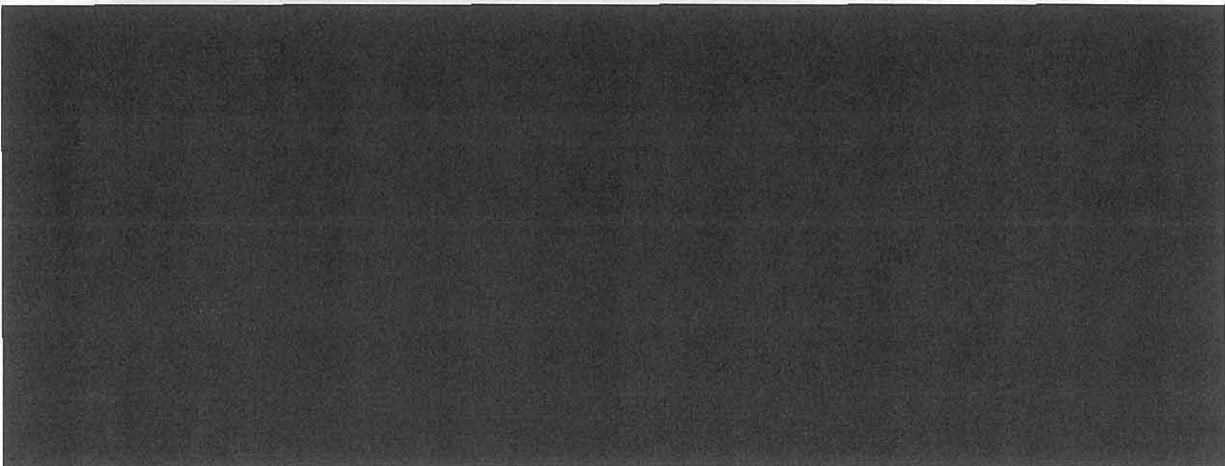
(1) 〈業務起因性の判断基準〉



(2) 〈業務の量的過重性〉

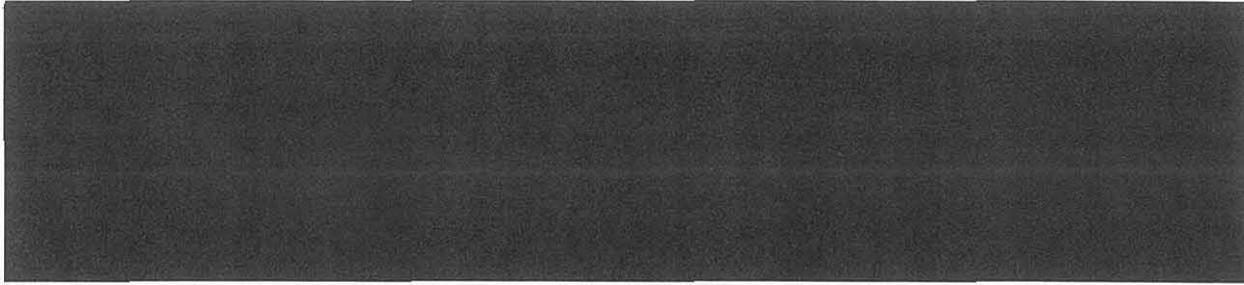


(3) 〈業務の質的過重性〉



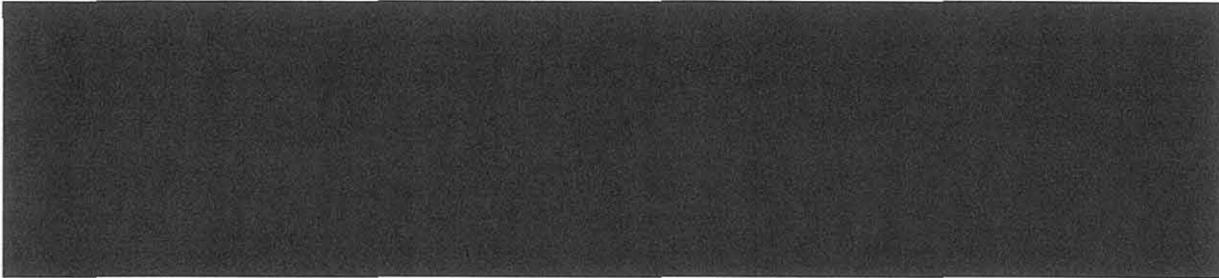
(4) 〈業務起因性〉



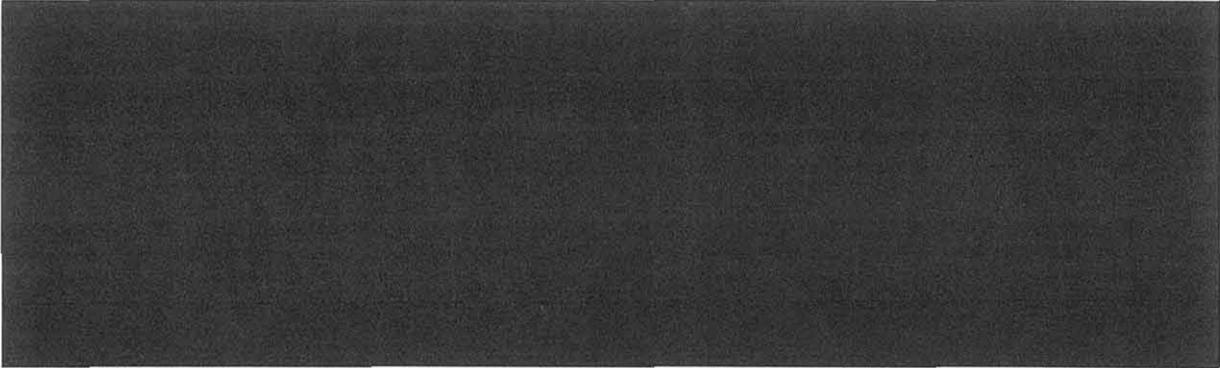


4 控訴審判決要旨（国逆転敗訴）（平成 年 月 日）

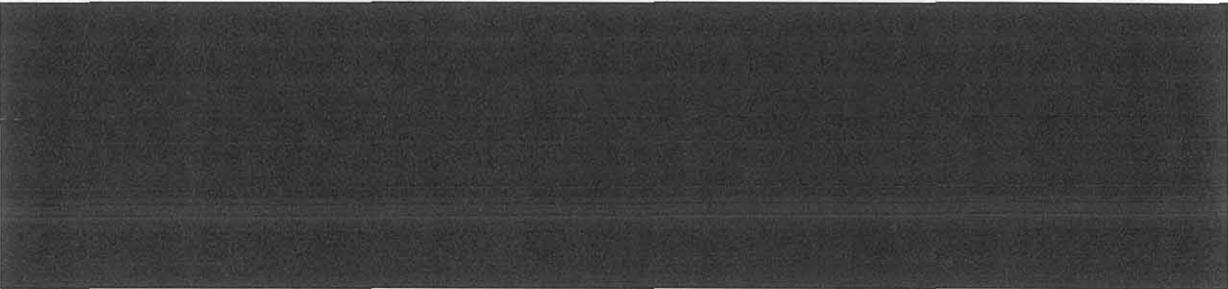
(1) <業務起因性の判断基準>



(2) <亡夫の労働の過重性>



(3) <業務起因性>



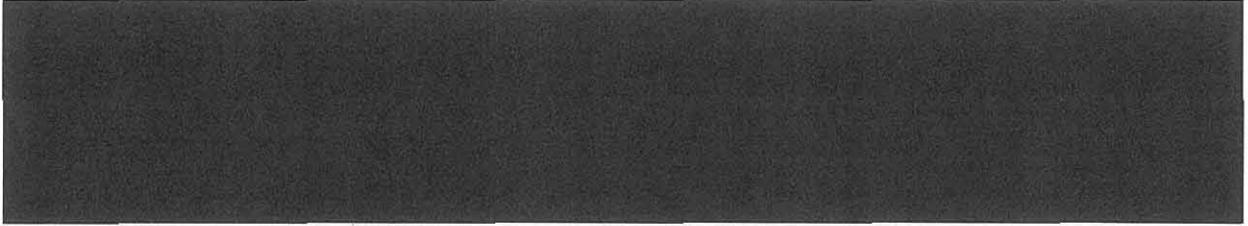
5 控訴審において敗訴した要因分析

		敗訴した要因と考える事項
1	医学証人	
2	致死的不整脈の発症機序	
3	運動強度の基準	

- [脳心2] 平成 年 月 日 甲府地裁判決 国敗訴、一審確定  
[特筆すべきリスクファクターが認められない若年労働者の突然死について、持ち帰り残業について業務性があるとして、業務起因性が認められた例]

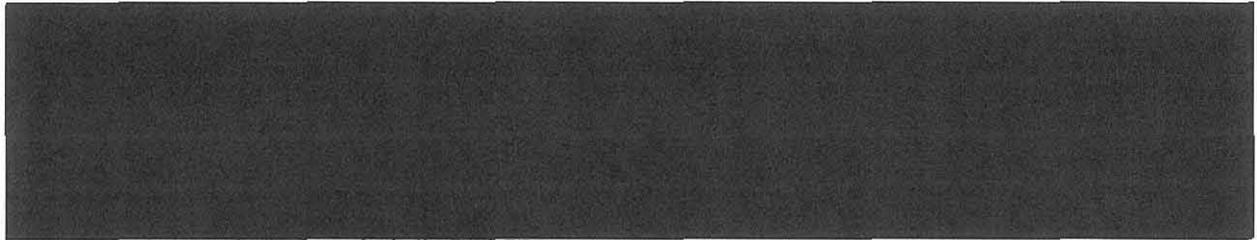
キーワード: ①特筆すべきリスクファクターが認められない若年労働者の突然死  
②持ち帰り残業

## 1. 事件の概要

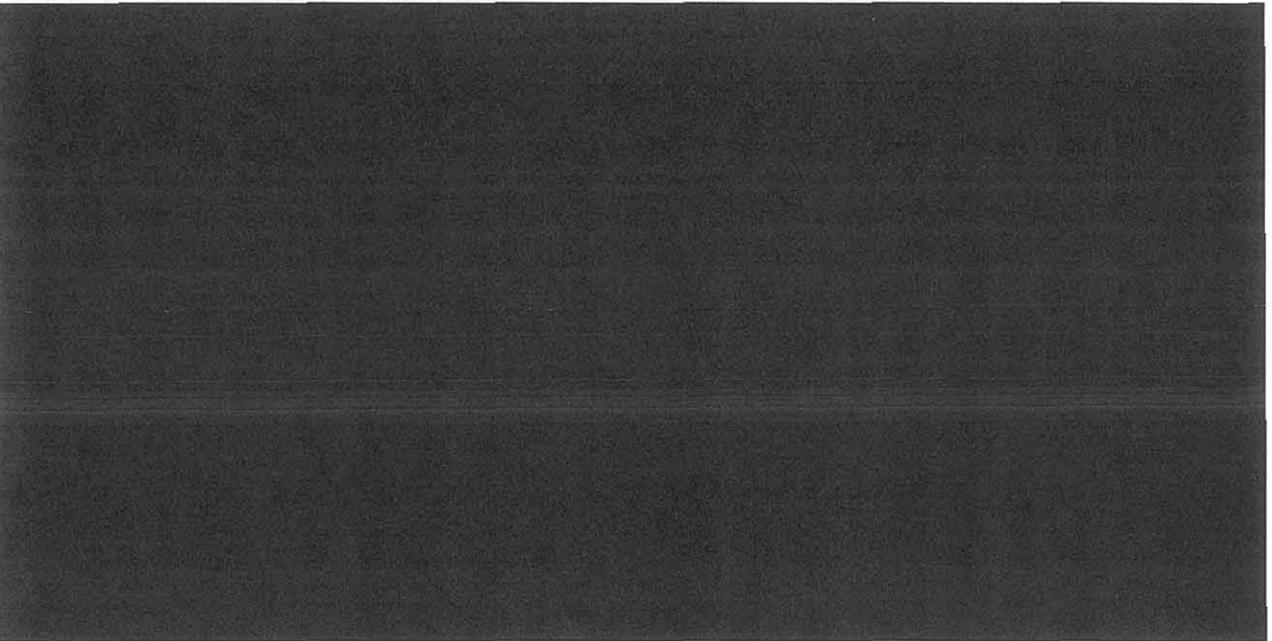


## 2 判決要旨

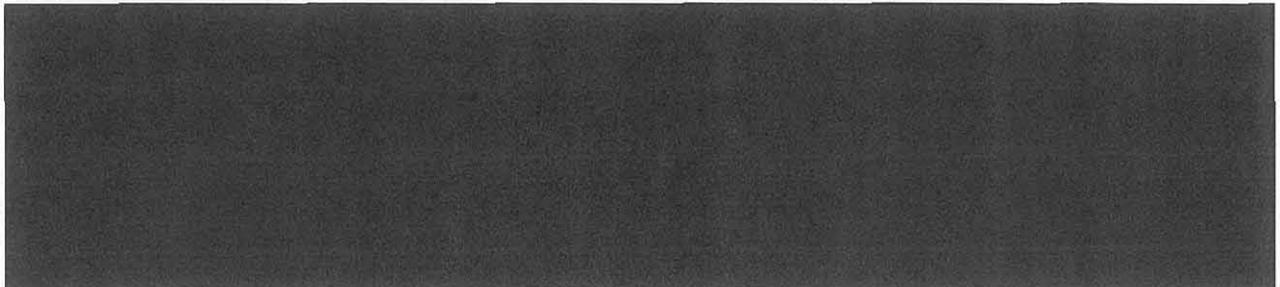
### (1) <判断枠組み>



### (2) <ISO対応業務の自宅作業時間>



### (3) <業務起因性>



3 国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	平成10年6月におけるISO対応業務の実施割合		
2	ISO対応業務の所要作業時間		
3	6月の自宅作業時間		
4	自宅作業の業務性		

4 敗訴した要因分析

		敗訴した要因と考える事項
1	自宅作業の必要性	

5 原処分時の問題点



○〔脳心3〕平成 年 月 日 大阪地裁判決 国敗訴 一審確定

[携帯電話の開発・製造会社の大阪事務所長が、接待中に倒れ、くも膜下出血により死亡した事例]

キーワード：①接待 ②24時間オンコール

1 事件の概要

[Redacted]

2 判決要旨

(1) <判断枠組み>

[Redacted]

(2) <出退勤等の時刻>

[Redacted]

(3) <接待等の業務性>

[Redacted]

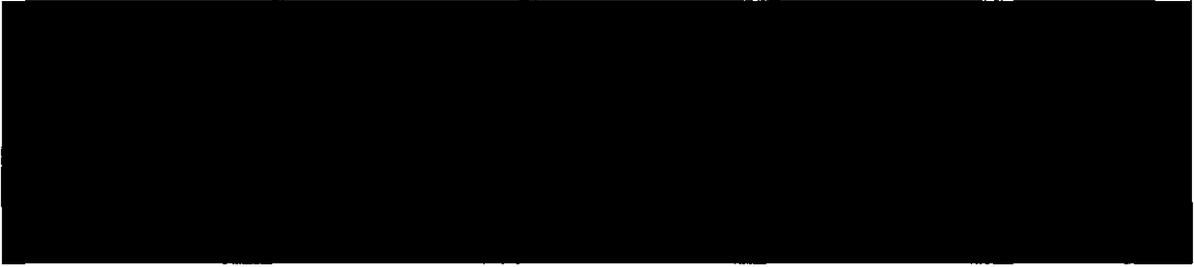
(4) <24時間オンコール体制>

[Redacted]

(5) <業務起因性>

[Redacted]

(6) <時間外労働時間数>



3 国側主張と判決との相違点

	国側主張	判決
1 通常勤務 終了時刻		
2 接待の範囲 (回数と開始刻)		
3 24時間オンコ ールの過重性		

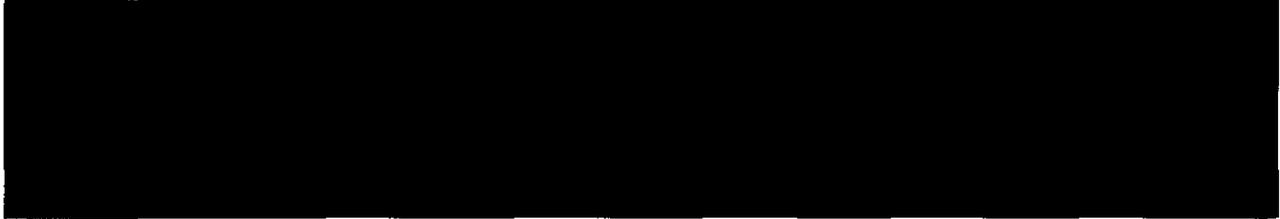
4 敗訴の要因分析

	敗訴した要因として考えられる事項
1 退社時間の機械 警備記録の収集 怠り	
2 退社時間の聴取 者が1人であっ たこと	

- 〔脳心4〕平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国敗訴、一審確定  
〔①業務以外の発症因子が認められない労働者の突然死について、1か月当たり約60時間の時間外労働と付加的要因を総合考慮して業務起因性を肯定した例〕  
〔②原処分段階で請求人（原告）を含め一切の聴取を行わず、業務内容等の調査が十分なされていなかったため、敗訴した例〕

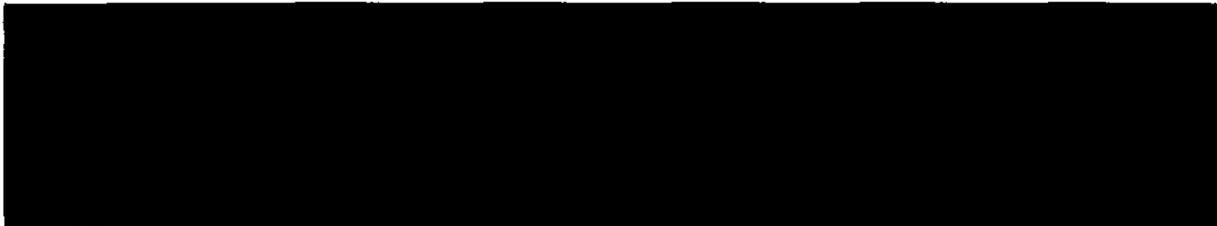
キーワード：①業務以外の発症因子が認められない労働者の突然死  
②聴取一切なし

1 事件の概要

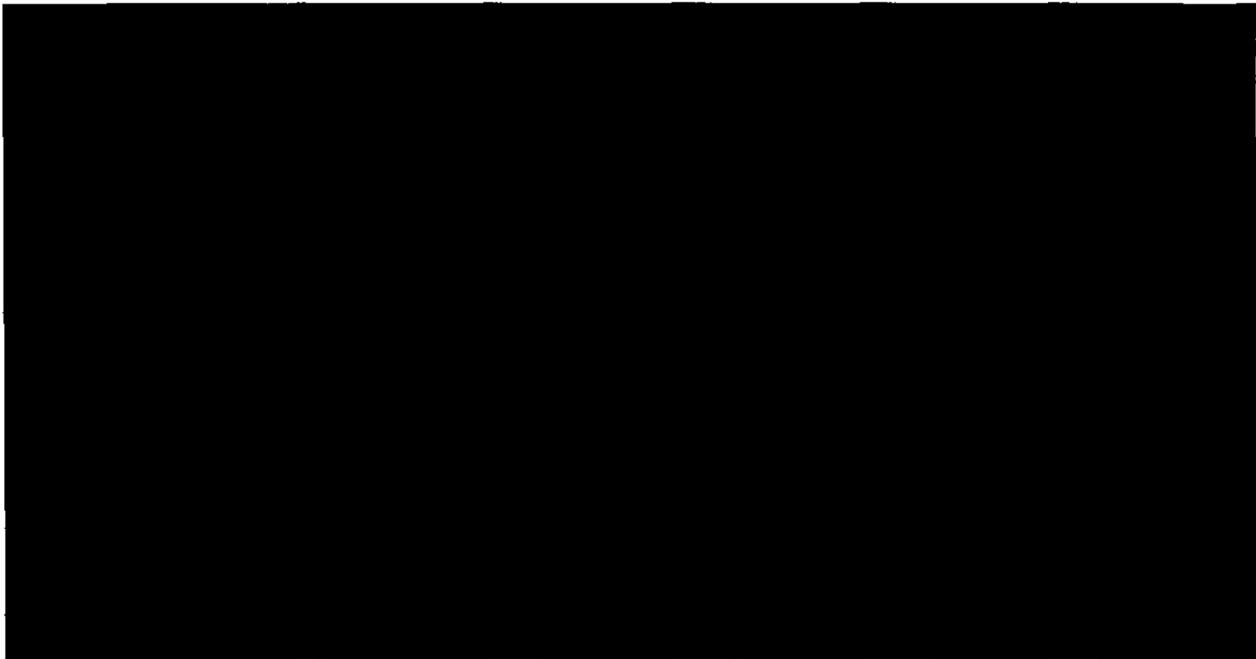


2 判決要旨

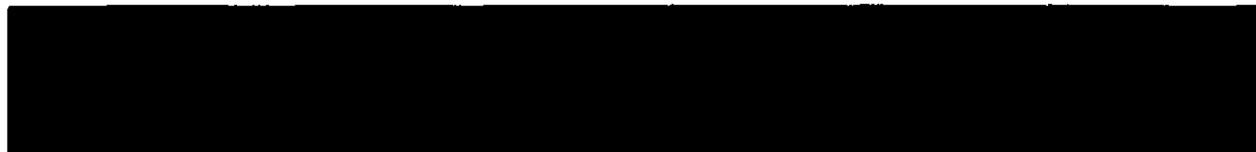
(1) <判断枠組み>



(2) <亡子の業務の過重性>



(3) <業務起因性>





3 国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	労働時間以外の付加的要因		

4 敗訴した要因分析

		敗訴した要因と考える事項
1	原告を含め聴取が一切なされなかったこと	

○ 【その他1】平成■■年■■月■■日 東京地裁判決 国敗訴 一審確定  
[建設機械本部長を兼務している執行役員について労働者性が認められた例]

キーワード：執行役員

1 事件の概要

[Redacted]

2 判決要旨

(1) 〈労災保険法上の労働者〉

[Redacted]

(2) 〈亡夫の業務実態〉

[Redacted]

(3) 〈執行役員としての業務〉

[Redacted]

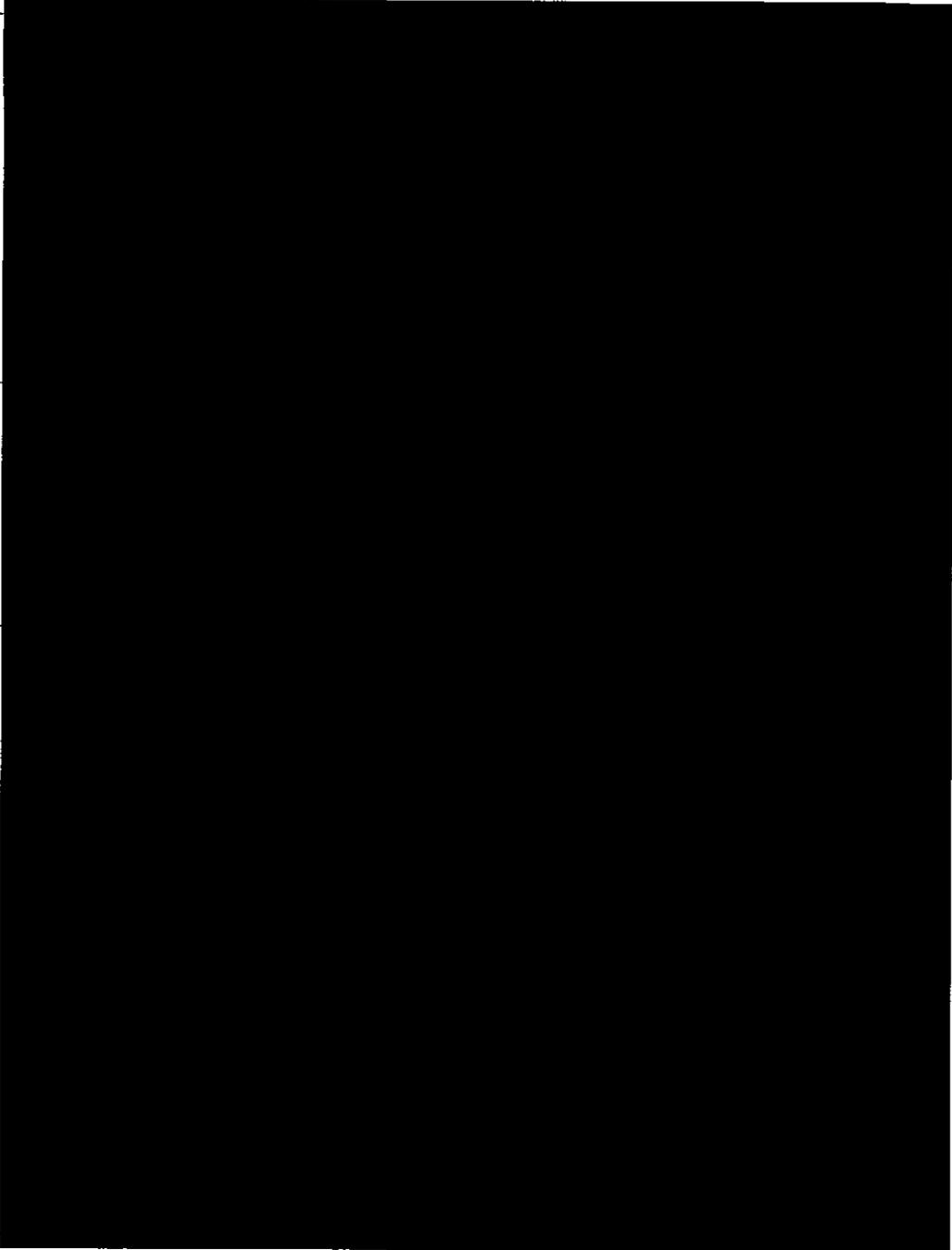
(4) 〈報酬〉

[Redacted]

3 国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	執行役員規程による経営担当者性	[Redacted]	[Redacted]

2	取引決裁権限
3	就業規則の適用等
4	執行役員としての業務内容
5	労務に対する対償としての報酬



4 敗訴した要因分析

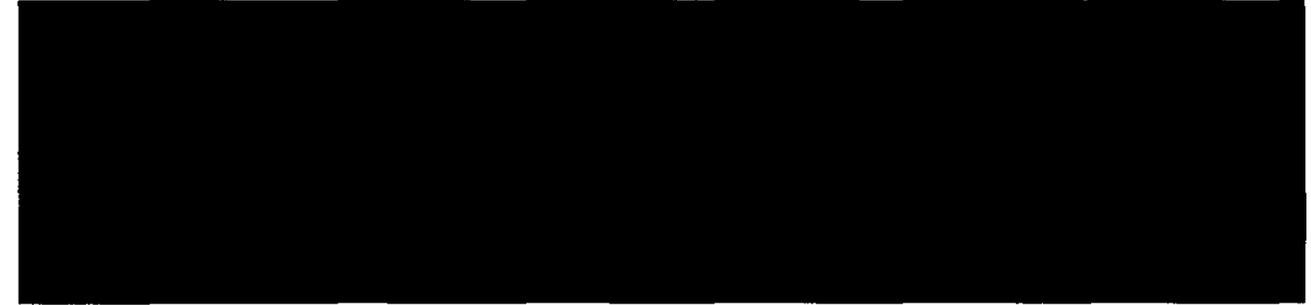
		敗訴した要因と考える事項
1	執行役員と部長との兼務	
2	執行役員と会社法上の取締役との相違	

- 【その他2】 控訴審：平成 年 月 日 東京高裁判決 国勝訴（確定）  
（一 審：平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴）

[長時間労働の認められる労働者に発症した糖尿病及び糖尿病性ケトアシドーシスについて、ストレスと発症との間に因果関係があることにつき通常人が疑いを差し挟まない程度に真実の確信を持つにはいまだ不十分であるとして、業務起因性を認めなかった例]

キーワード：認定基準の定められていない疾病の業務起因性

## 1 事件の概要

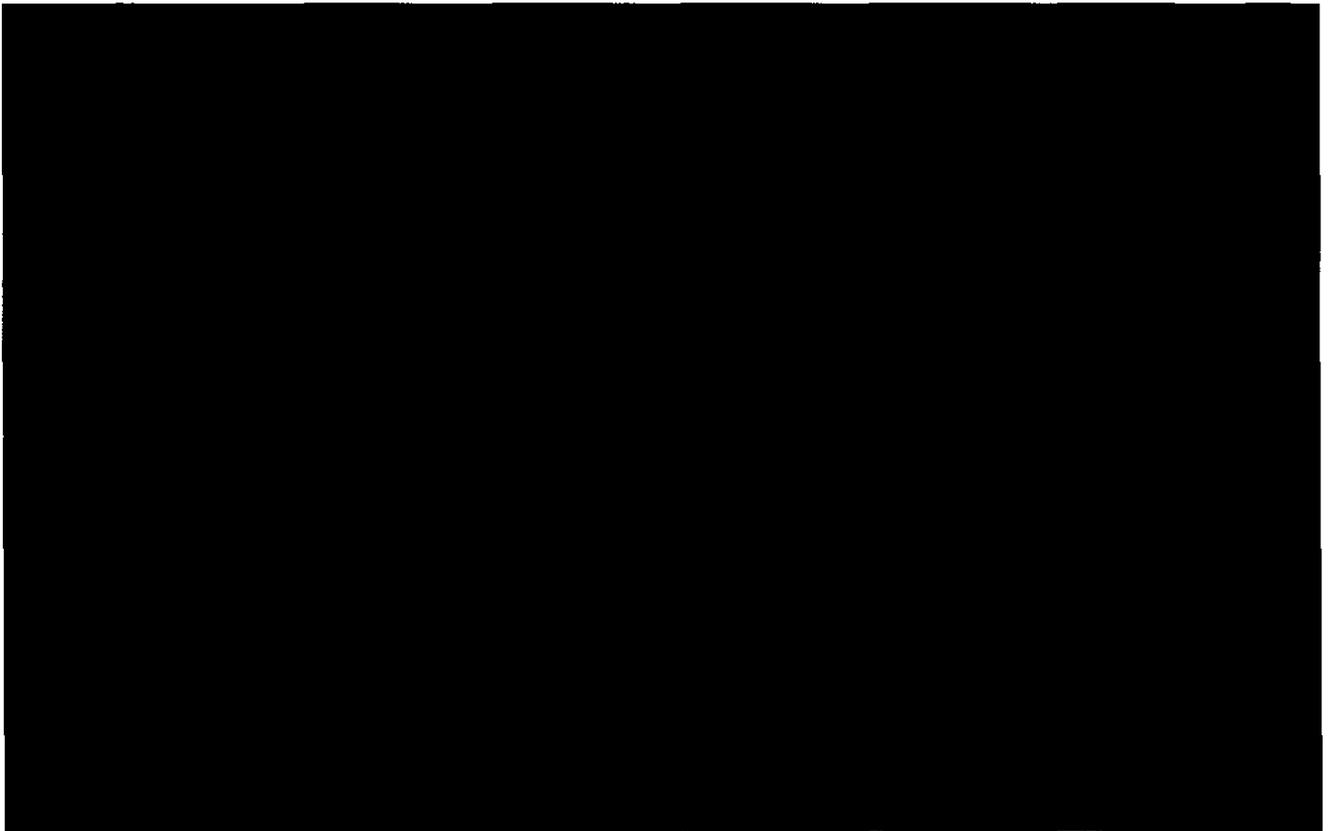


## 2 控訴審判決要旨（国勝訴）

### (1) 〈亡子の糖尿病の型〉

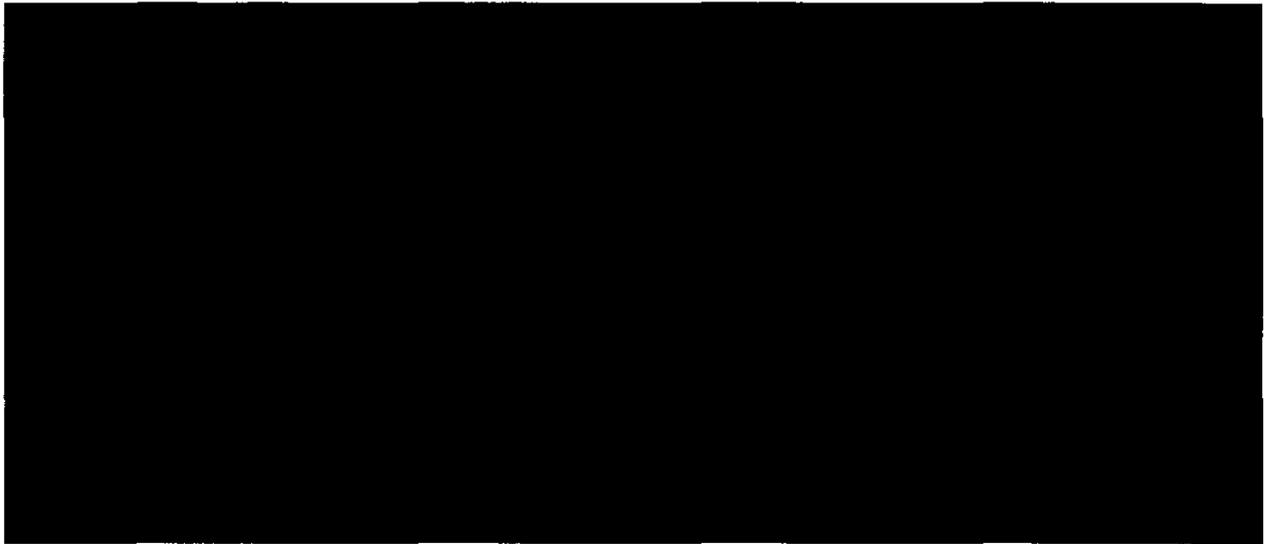


### (2) 〈糖尿病発症の業務起因性〉



### (3) 〈糖尿病の増悪及びDKAの発症と業務との因果関係〉





(4) 〈結論〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	糖尿病及びDKAの発症とストレスとの因果関係	

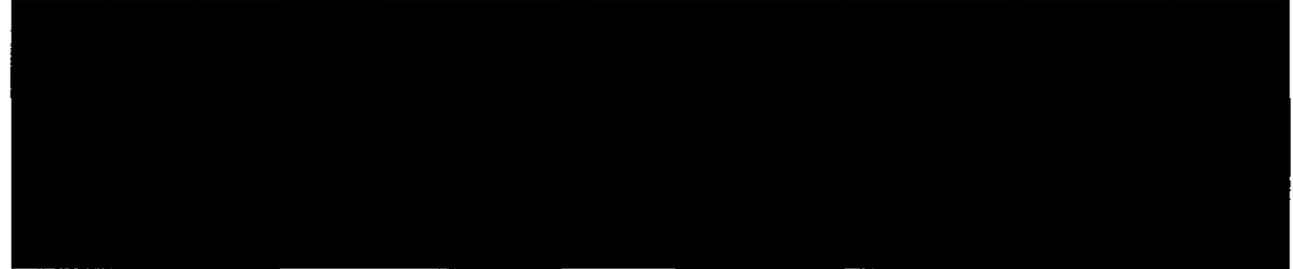


- 〔その他3〕最高裁：平成 年 月 日 原告の上告棄却  
〔広島地裁：平成 年 月 日 国敗訴〕  
〔広島高裁：平成 年 月 日 国逆転勝訴〕

〔中小事業主の特別加入者に係る出張中の災害について、業務遂行性を認めないとした例〕

キーワード：中小事業主特別加入者・下見業務

1 事件の概要



2 上告審判決要旨〔最高裁〕

(1) 〈判断枠組み〉



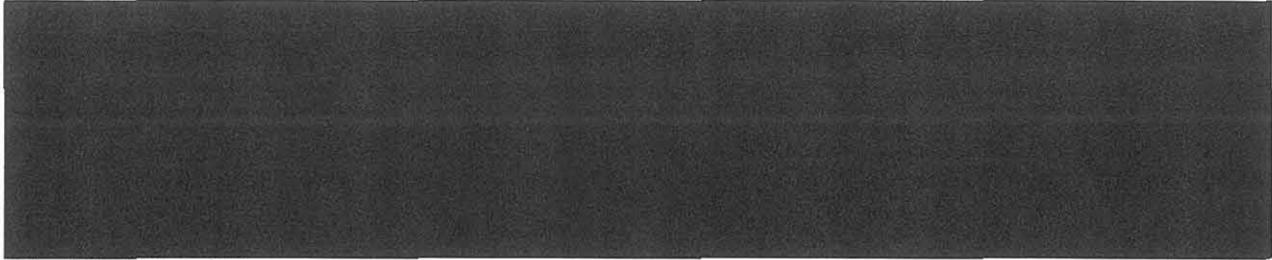
(2) 〈結論〉



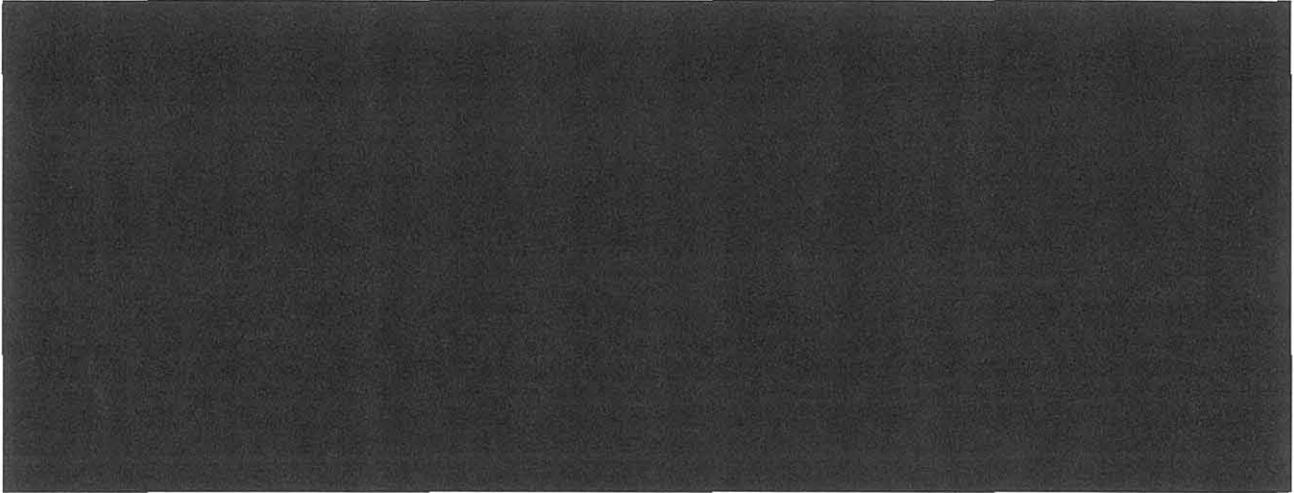
3 一審判決要旨〔広島地裁〕(国敗訴)

(1) 〈判断枠組み〉



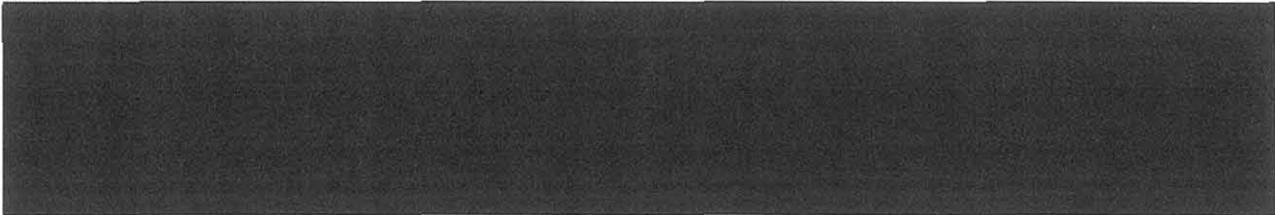


(2) 〈業務遂行性〉

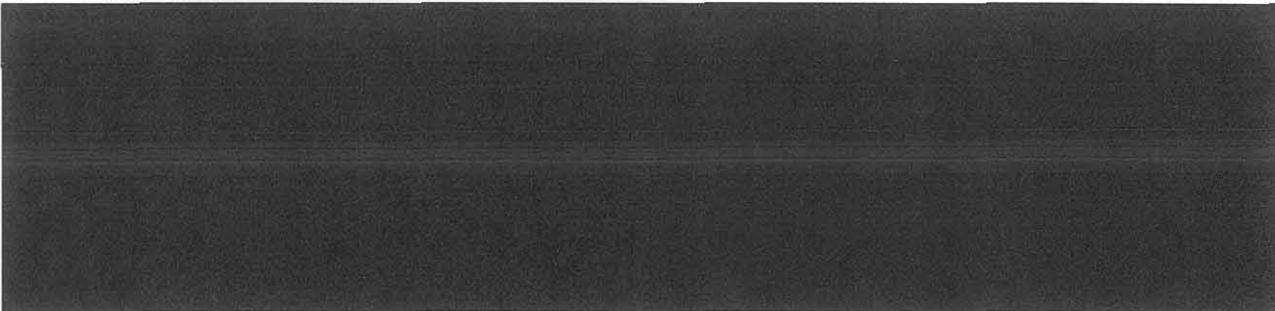


4 控訴審判決要旨〔広島高裁〕（国逆転勝訴）

(1) 〈判断枠組み〉



(2) 〈業務遂行性〉



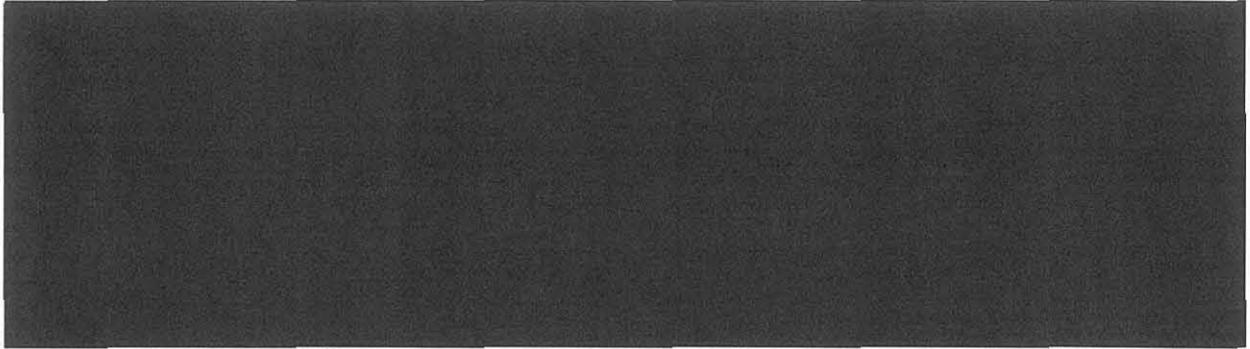
5 控訴審において逆転勝訴した要因分析

	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
下見業務が、当該事業主の本来業務であること	A large black rectangular redaction covering the content of the table row.

- 【その他4】平成■■年■■月■■日 名古屋地裁判決 国勝訴（確定）  
[中等度酩酊の飲酒運転について、業務遂行性を否定した例]

キーワード：飲酒運転の業務遂行性

1 事件の概要

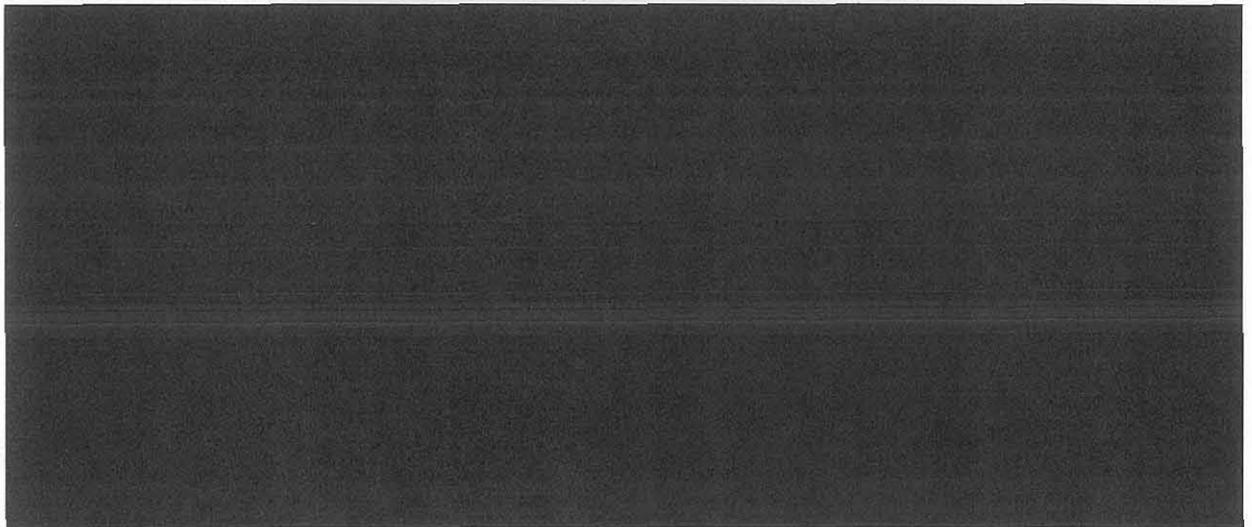


2 判決要旨

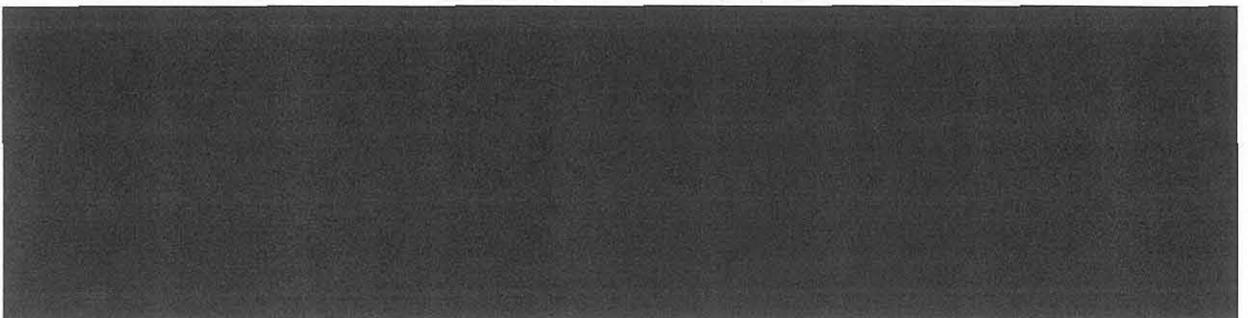
(1) 〈出発時刻等〉

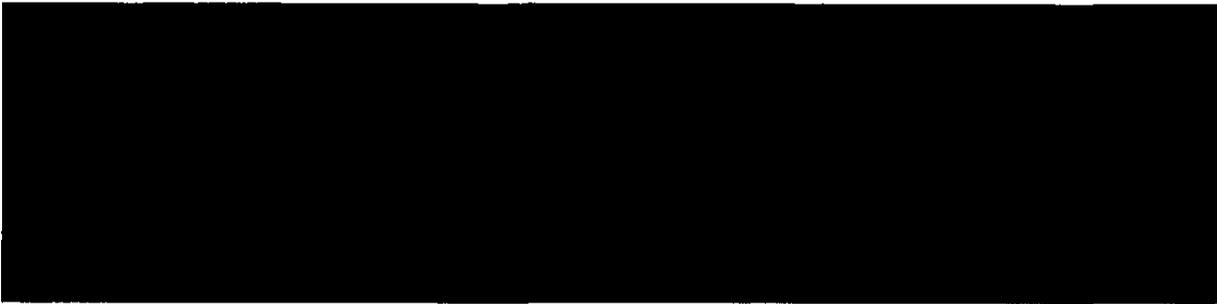


(2) 〈飲酒・酩酊の程度〉



(3) 〈業務遂行性〉





(4) 〈業務起因性〉



3 勝訴要因

		国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	血中アルコール濃度	[Redacted]

(参考) 血中アルコール濃度と酩酊度

血中アルコール濃度 (mg/ml)	酩酊度	状態
0.5以下		無症状ないし活力充満、ほろ酔い気分、多幸感、気分の高揚
0.5～1.0	弱度酩酊	軽い乱れ、皮膚紅潮、軽度血圧上昇、呼吸数や脈拍数の増加
1.0～1.5	軽度酩酊	酔態状態、自制心の低下、陽気、多弁、興奮
1.5～2.5	中等度酩酊	発語やや不明瞭、判断力と認識力の低下、感覚鈍麻、協調運動障害、歩行失調、おう吐
2.5～3.5	強度酩酊	発語不明瞭、自発運動の困難、意識混濁、傾眠
3.5～4.5	泥酔 (昏睡)	意識消失、反射消失、体温低下、呼吸緩徐、瞳孔散大傾向、この状態の継続は致死的
4.5以上		心臓機能不全、脳幹機能の抑制、呼吸麻痺、死亡

脳・心臓疾患（持ち帰り残業・出張の多い業務）敗訴判決の分析  
（平成19年度～平成22年度）

<持ち帰り残業>

N o	年度	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	19	平成■年■月■日 札幌高裁判決	システムマニュアルの自宅学習が業務と認定された例	システムマニュアルの自宅学習
2	21	平成■年■月■日 大阪地裁判決	技術士の資格取得に係る受験及び自宅等での受験勉強が業務と認定された例	技術士試験の受験勉強
3	21	平成■年■月■日 東京地裁判決	自宅でのパソコン作業は労働時間として算定できないが、精神的緊張を強いられるものとして評価された例	自宅でのパソコン作業
4	21	平成■年■月■日 福岡地裁判決	自宅での会議資料等の作成時間が労働時間として算定された例	会議資料等の作成

<出張の多い業務>

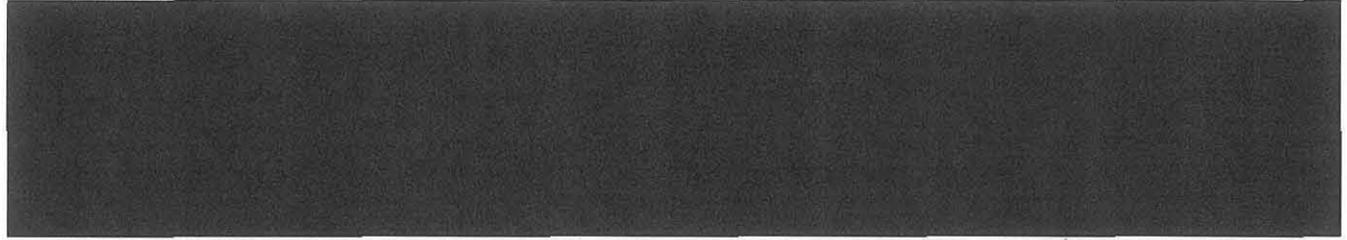
N o	年度	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	20	平成■年■月■日 東京地裁判決	頻繁な自家用車による出張が過重と評価された例	自家用車による出張
2	20	平成■年■月■日 札幌地裁判決	公共交通機関を利用した長期間にわたる出張が過重と評価された例	長期間の出張
3	22	平成■年■月■日 札幌高裁判決	長期間の研修に伴う頻繁な移動が過重と評価された例	長期間の研修



- [持ち帰り残業1] 一審：平成■■年■■月■■日 札幌地裁判決 国敗訴  
控訴審：平成■■年■■月■■日 札幌高裁判決 国敗訴 確定  
[システムマニュアルの自宅学習が業務と認定された例]

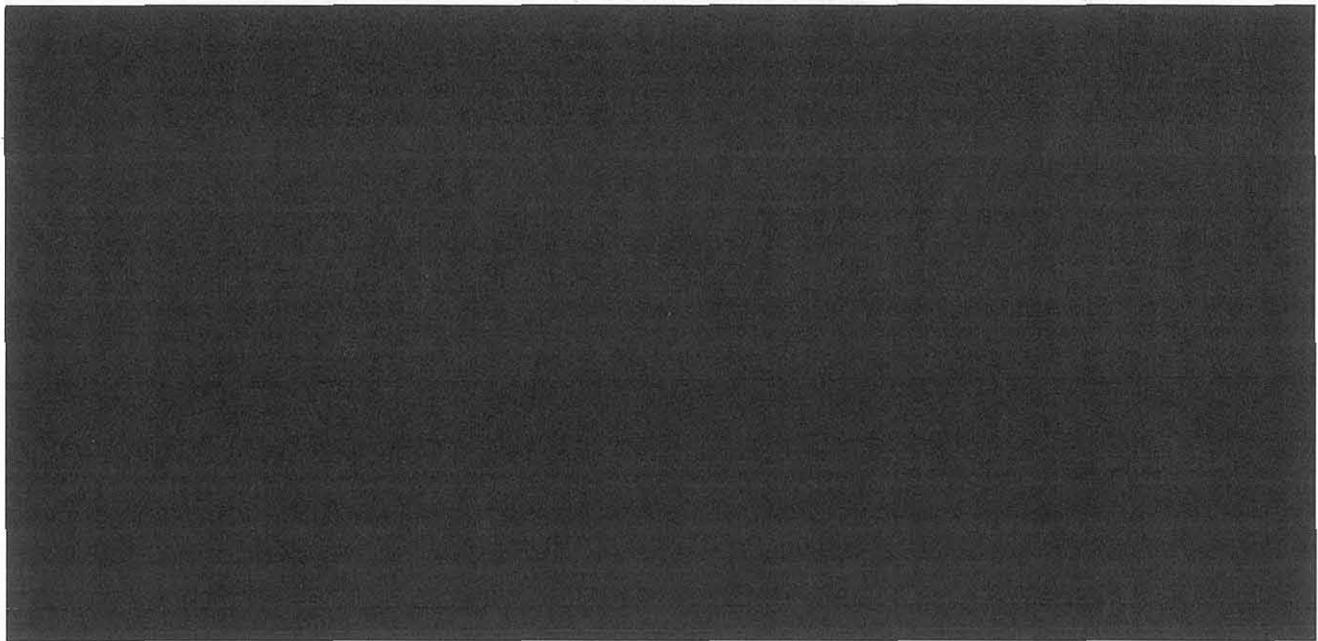
キーワード：システムマニュアルの自宅学習

1 事件の概要

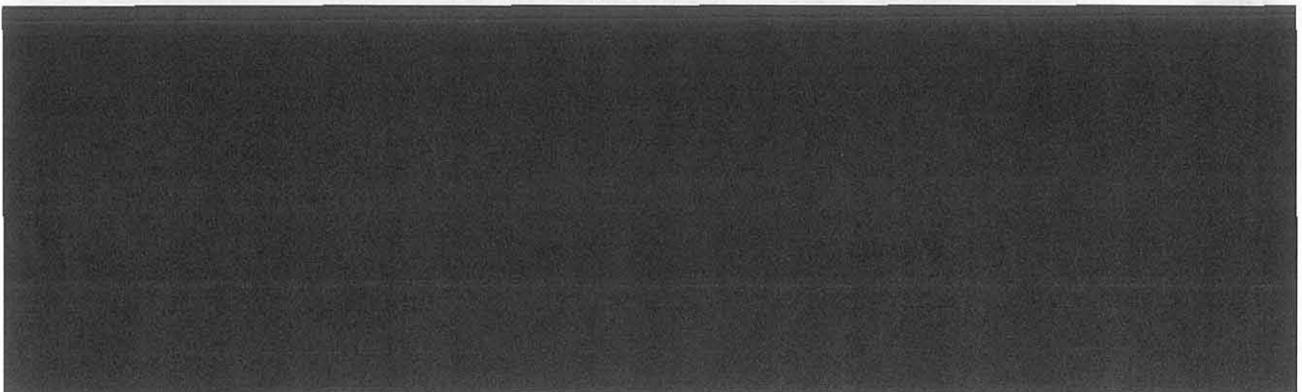


2 第一審及び控訴審判決要旨

(1) 〈持ち帰り学習の業務性〉

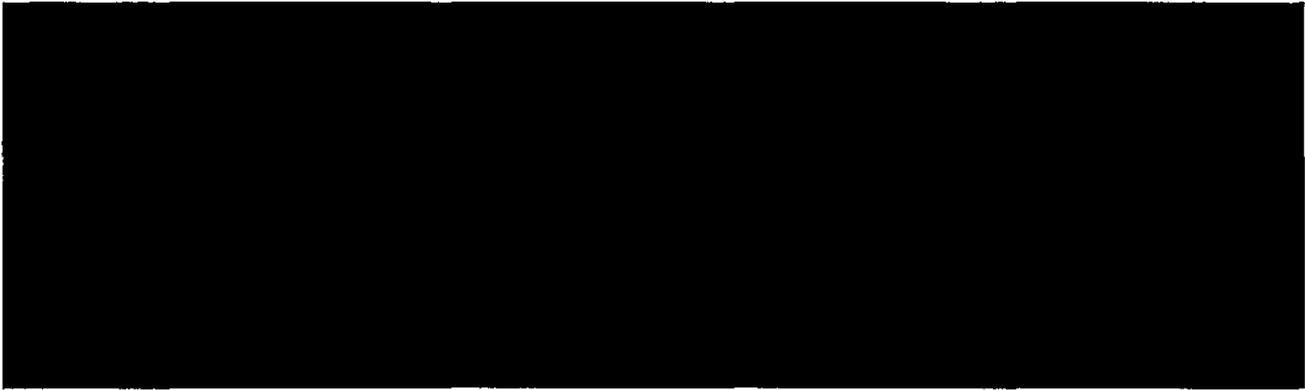


(2) 〈労働時間〉

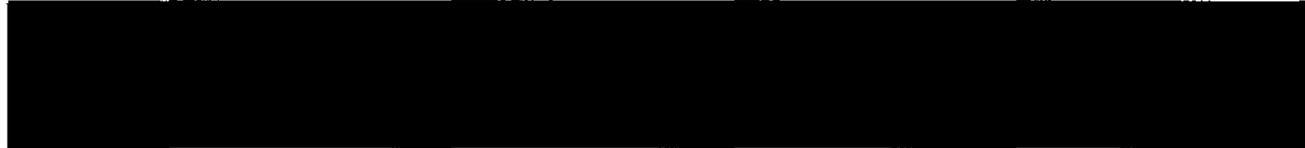


(3) 〈付加的要因〉





(4) 〈業務起因性〉



3 持ち帰り残業にかかる国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	持ち帰り学習の必要性		
2	持ち帰り学習に要した時間		

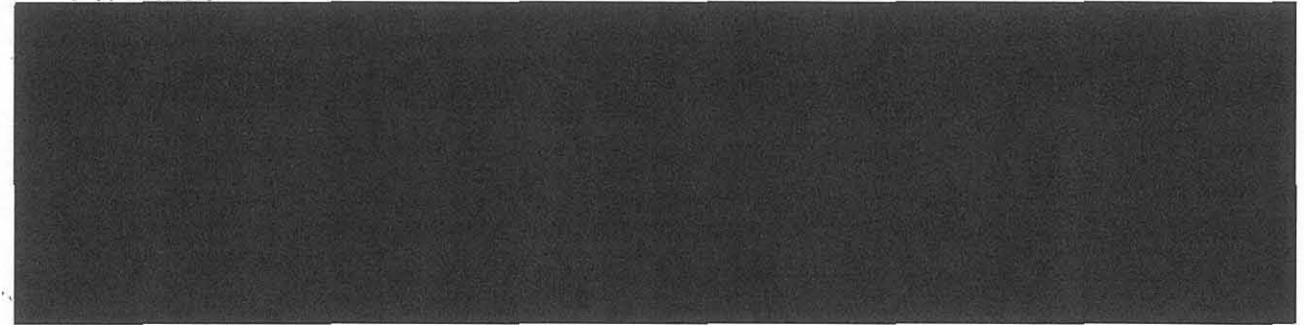
4 持ち帰り残業に係る主張の問題点

		問題点
1	持ち帰り学習の業務性	

- [持ち帰り残業2] 平成■■年■■月■■日 大阪地裁判決 国敗訴 確定  
[技術士の資格取得に係る受験及び自宅等での受験勉強が業務と認定された例]

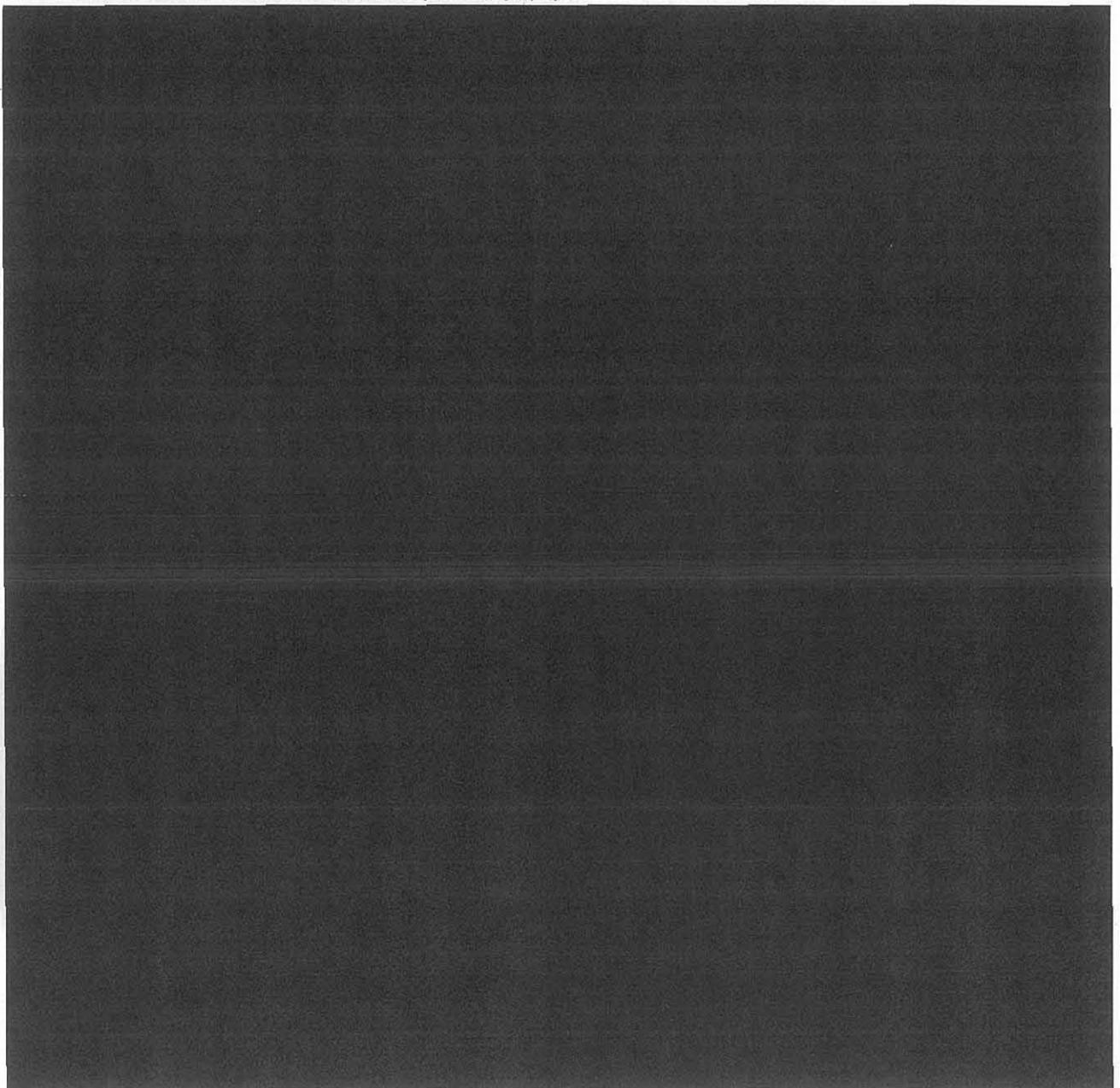
キーワード：技術士試験の受験勉強

1 事件の概要

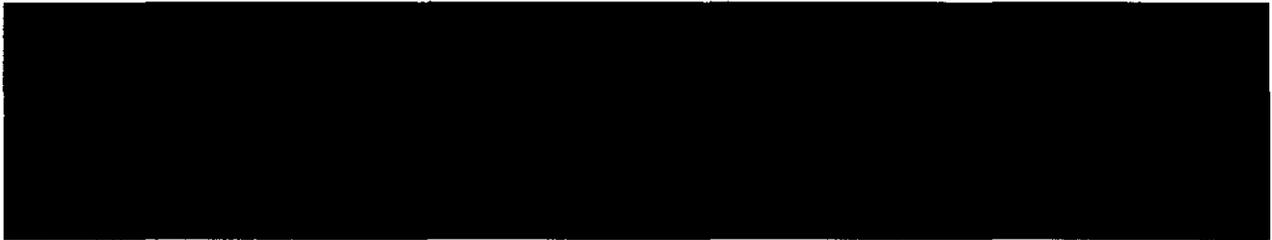


2 判決要旨

(1) 〈技術士試験の受験及び受験勉強の業務性〉



(3) 〈技術士試験の質的過重性〉



(4) 〈業務起因性〉



3 技術士試験の受験及び受験勉強にかかる国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	技術士試験の受験及び受験勉強の業務性		

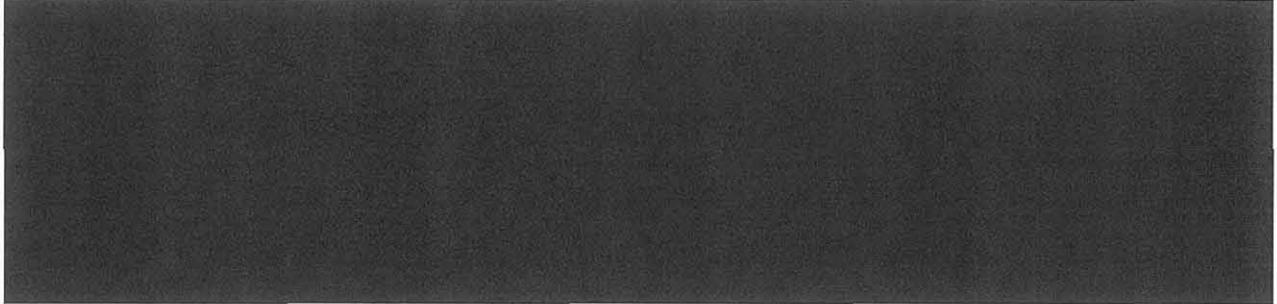
4 持ち帰り残業に係る主張の問題点

		問題点
1	技術士試験の受験及び受験勉強の業務性	
2	受験勉強に要した時間	

- [持ち帰り残業3] 平成 年 月 日 東京地裁判決 国敗訴 確定  
[自宅でのパソコン作業は労働時間として算定できないが、精神的緊張を強いられるものとして評価された例]

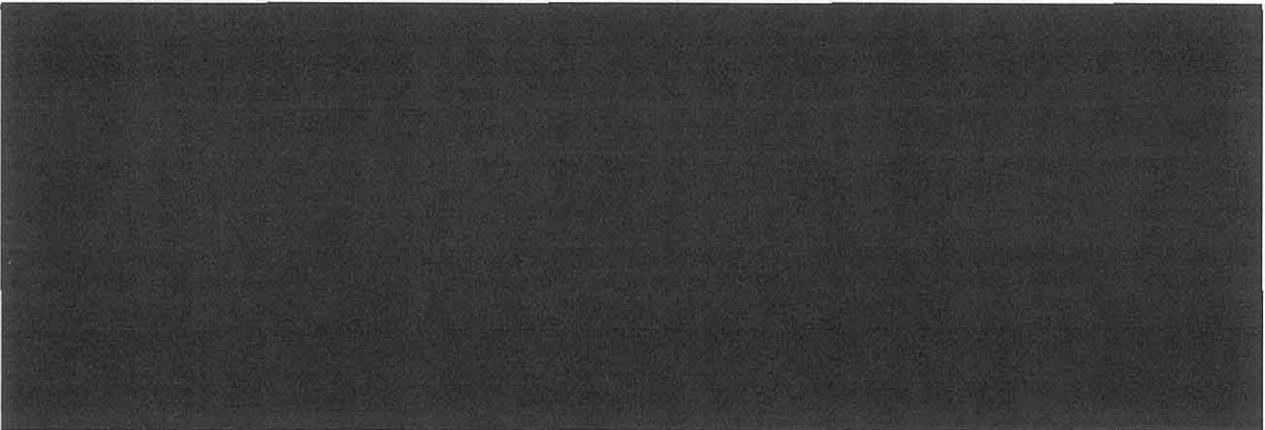
キーワード：自宅でのパソコン作業

1 事件の概要

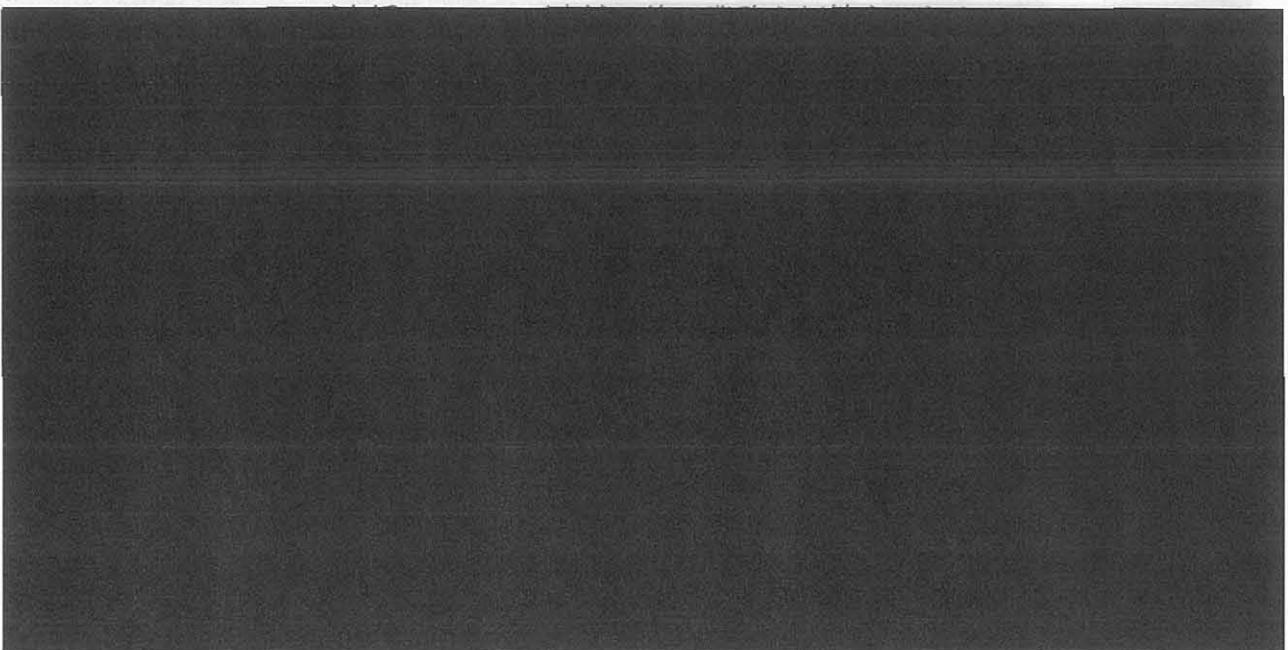


2 判決要旨

(1) 〈店舗における労働時間〉



(2) 〈自宅でのパソコン作業の業務遂行性〉

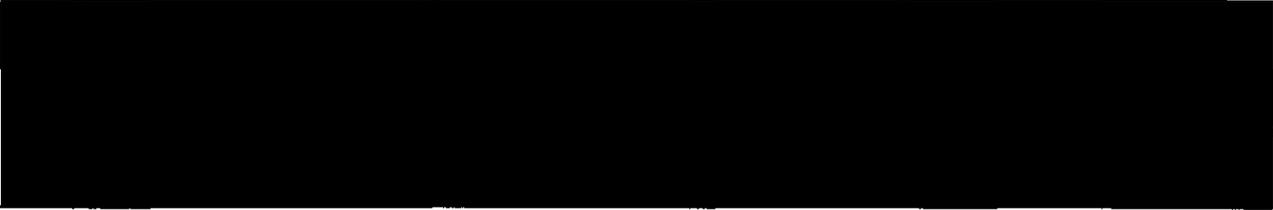


(3) 〈業務の質的過重性〉





(4) 〈業務起因性〉



3 自宅でのパソコンによる作業にかかる国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	業務遂行性		
2	過重性		
3	システム更新作業の所要時間		

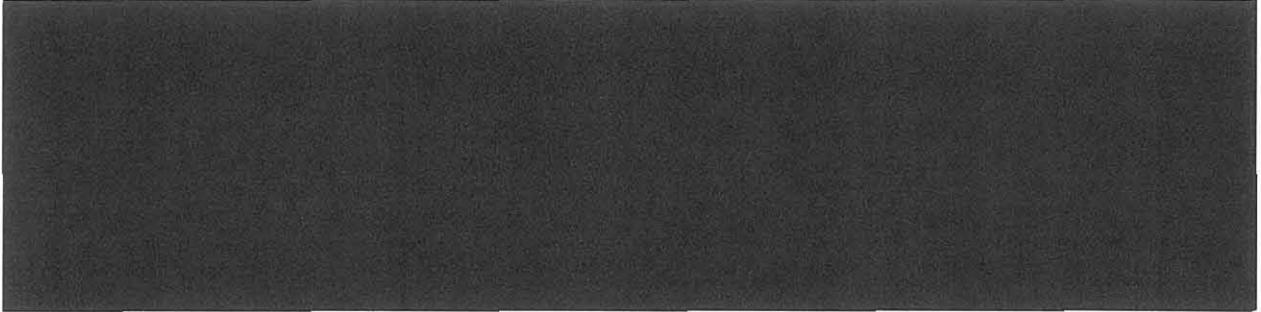
4 持ち帰り残業に係る主張の問題点

		問題点
1	自宅でのパソコン作業	

- [持ち帰り残業4] 一審：平成■■年■■月■■日 福岡地裁判決 国敗訴 確定  
[自宅での会議資料等の作成時間が労働時間として算定された例]

キーワード：会議資料等の作成

1 事件の概要

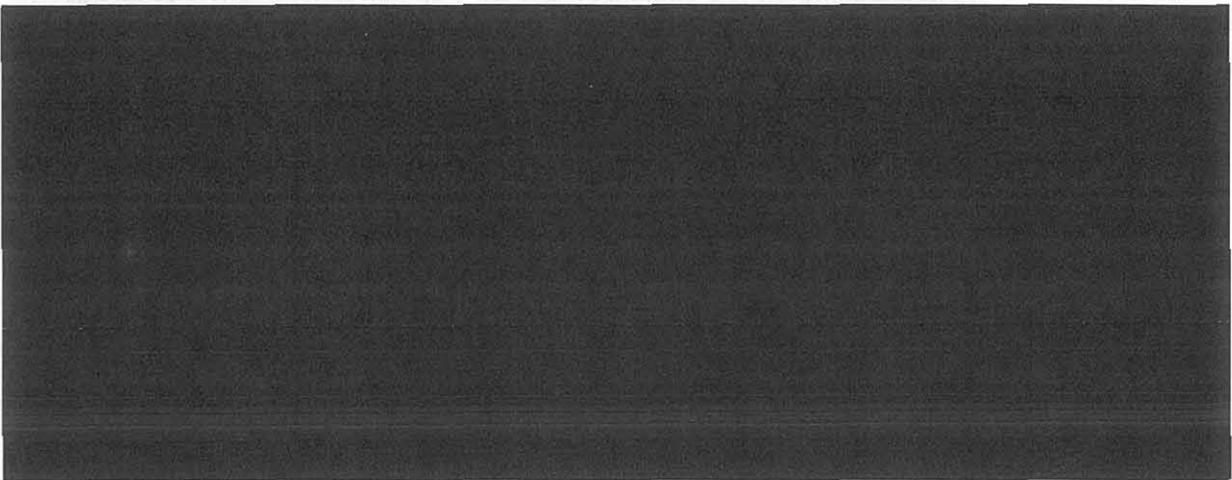


2 判決要旨

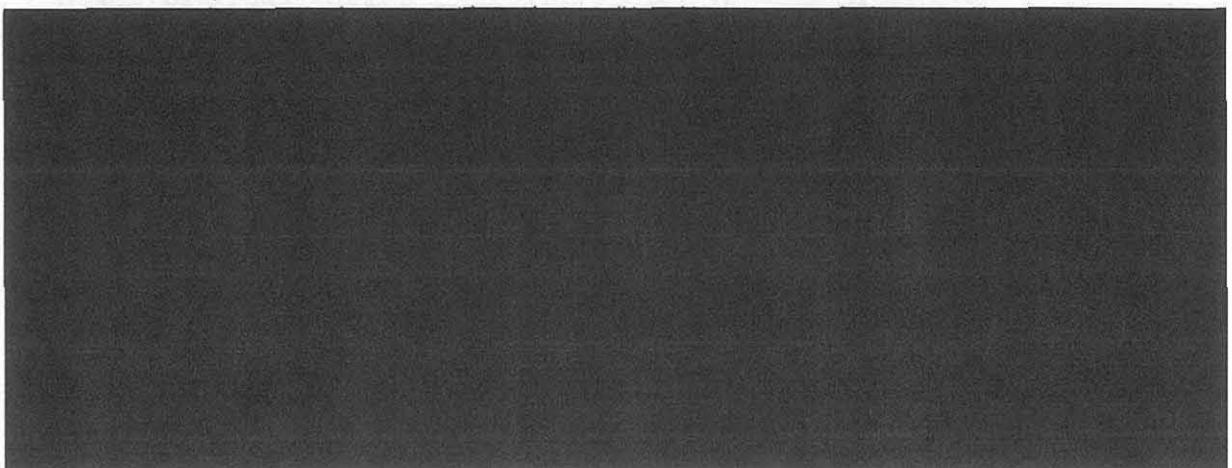
(1) 〈時間外労働時間〉



(2) 〈持ち帰り残業〉



(3) 〈出張業務の負荷〉



(4) 〈リスクファクター〉



(5) 〈業務起因性〉



3 持ち帰り残業及び出張の負荷に係る国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	持ち帰り残業の評価		
2	出張の負荷		

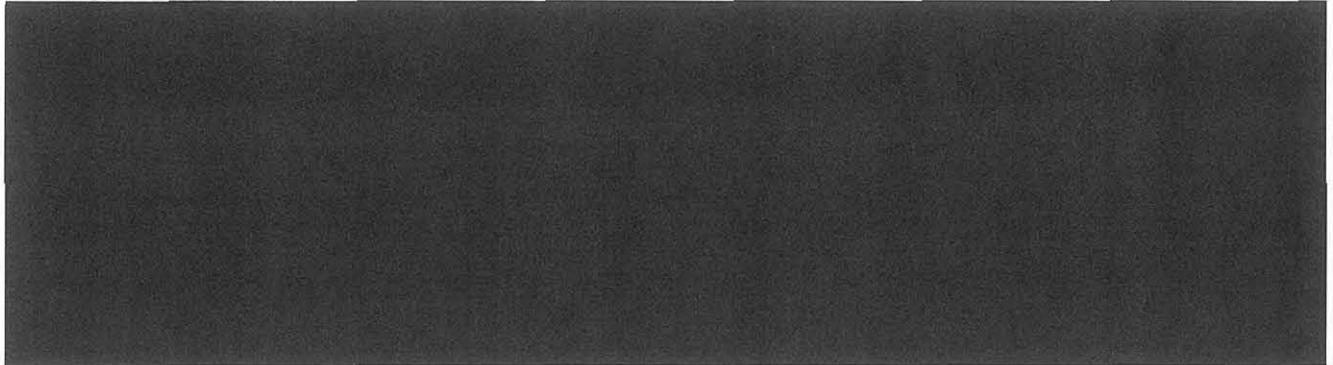
4 持ち帰り残業及び出張業務に係る主張の問題点

		問題点
1	持ち帰り残業	
2	出張の負荷	

- [出張の多い業務1] 平成 年 月 日 東京地裁判決 国敗訴 確定  
[頻繁な自家用車による出張の負荷が過重と評価された例]

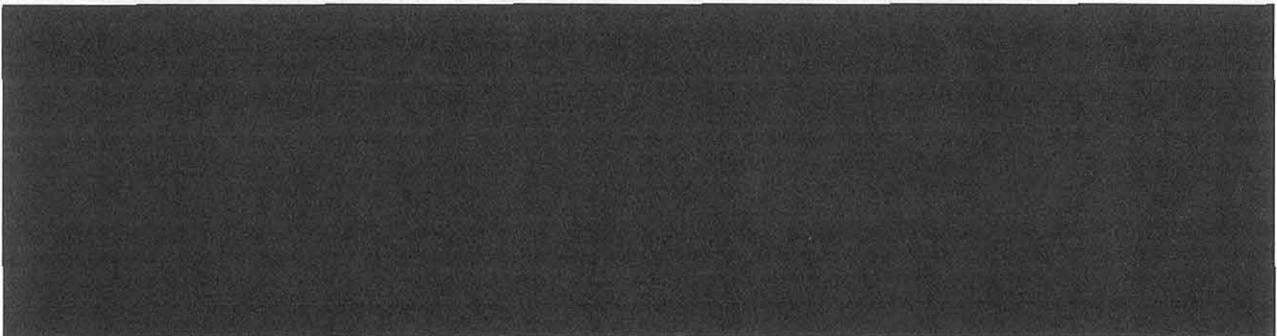
キーワード：自家用車による出張

1 事件の概要

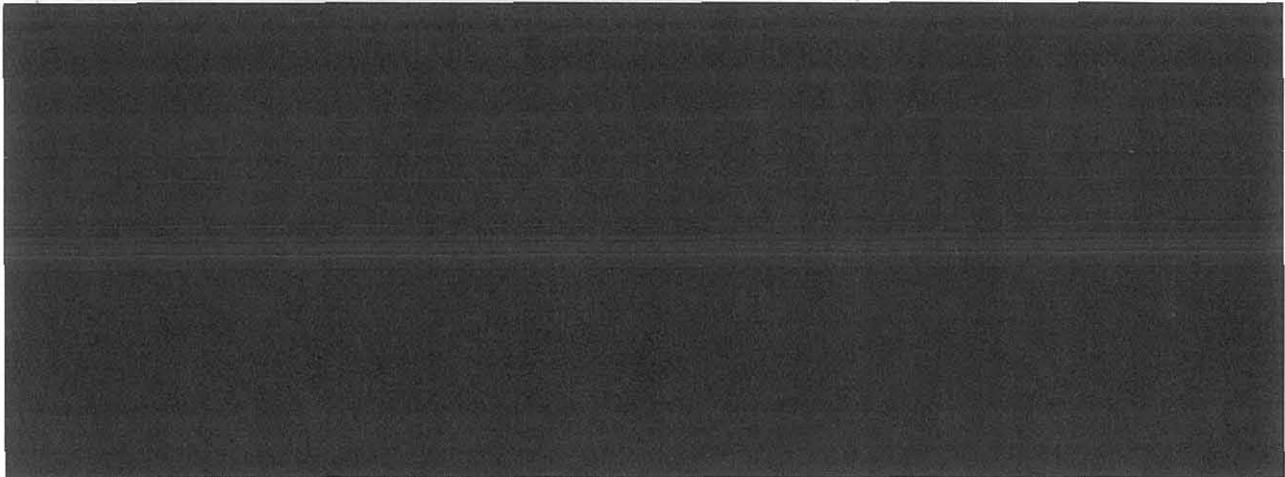


2 判決要旨

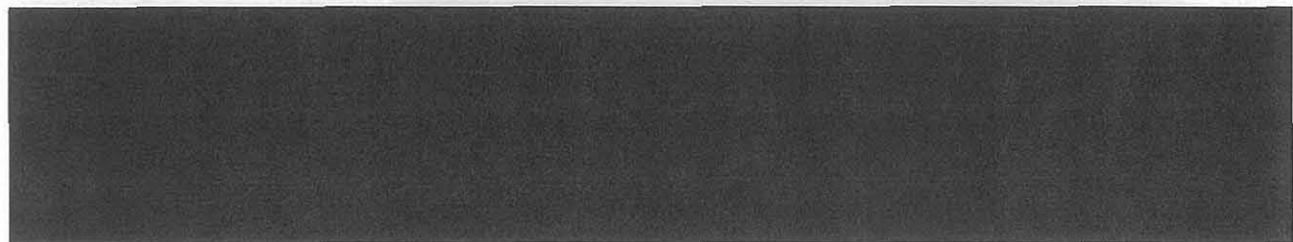
(1) 〈業務の量的過重性〉



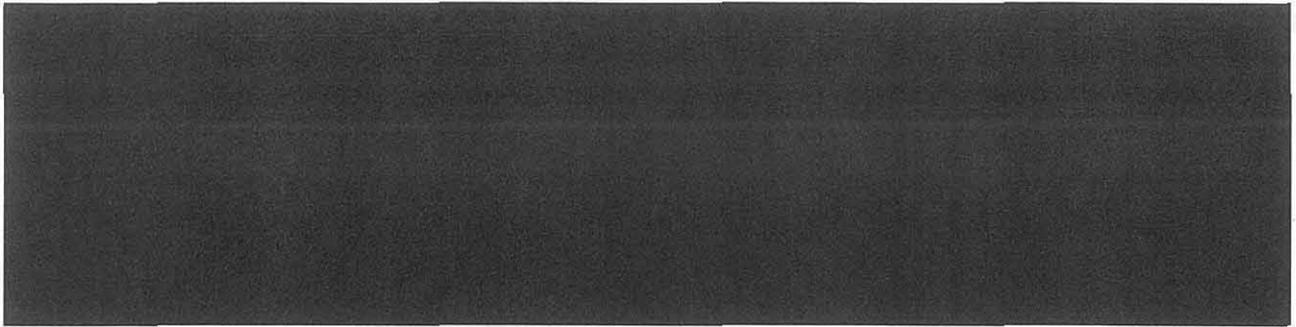
(2) 〈草津等出張の過重性〉



(3) 〈時間外労働の恒常化と責任の増大等〉



(4) 〈基礎疾患〉



(5) 〈業務起因性〉



3 出張業務に係る国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	自家用車による移動時間を労働時間に算入すべきか否か	[Redacted]	[Redacted]
2	自家用車による出張の過重性		

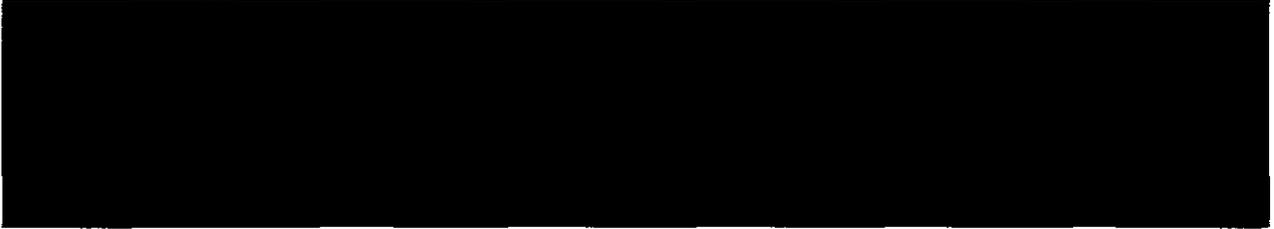
4 出張業務に係る主張の問題点

		問題点
1	自家用車による移動時間の評価	[Redacted]
2	自家用車による出張の過重性	

- [出張の多い業務2] 平成■■年■■月■■日 札幌地裁判決 国敗訴 確定  
[公共交通機関を利用した長期間にわたる出張が過重と評価された例]

キーワード：長期間の出張

1 事件の概要

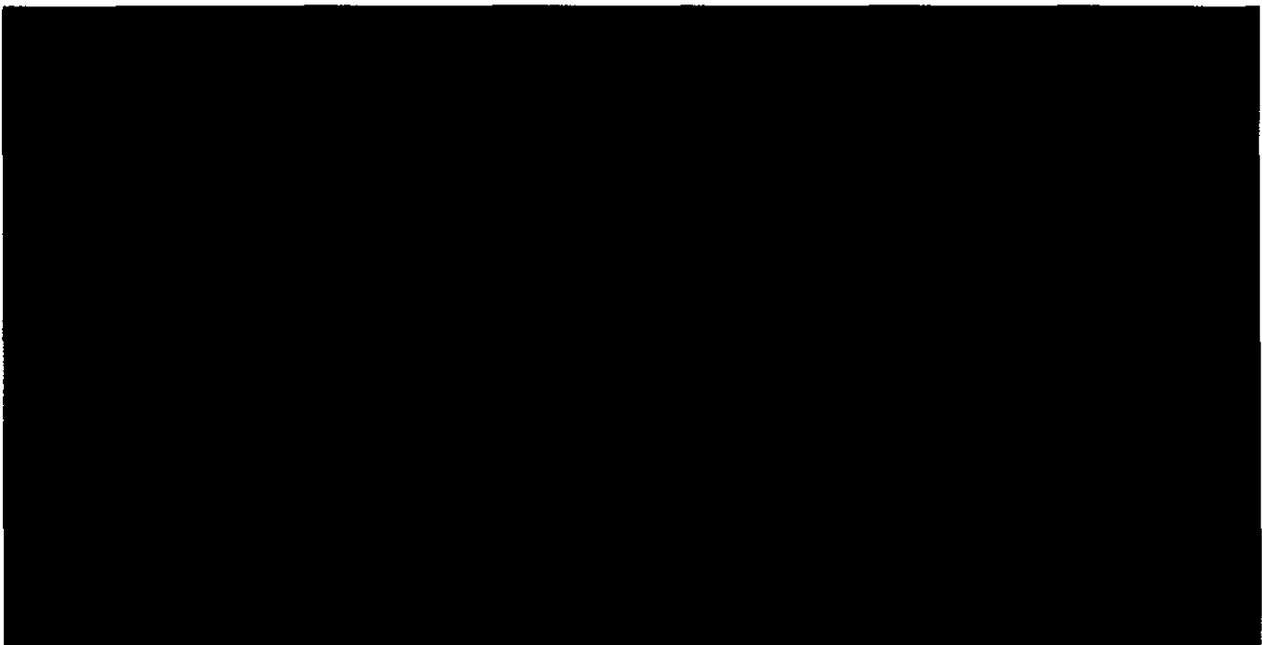


2 判決要旨

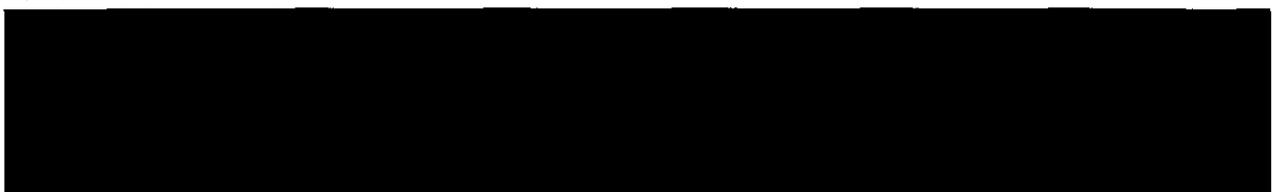
(1) 〈時間外労働時間等〉



(2) 〈出張の過重性〉



(3) 〈業務起因性〉



3 出張業務にかかる国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	催事場所間の移動の過重性		

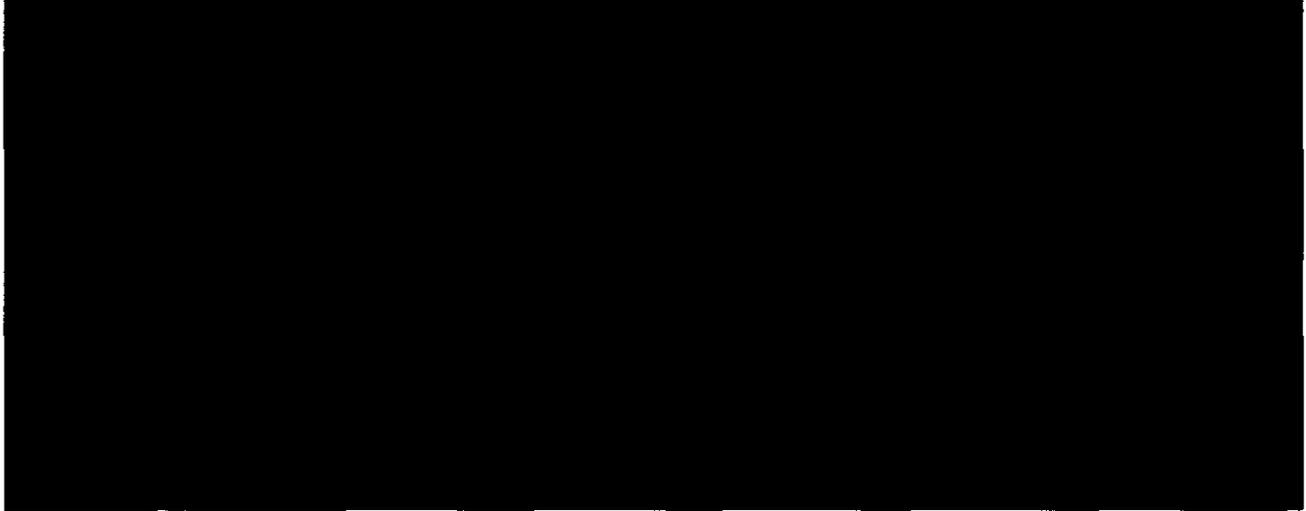
4 出張業務に係る主張の問題点

		問題点
1	催事場所間の移動の過重性	

- [出張の多い業務3] 一審：平成 年 月 日 札幌地裁判決 国敗訴  
控訴審：平成 年 月 日 札幌高裁判決 国敗訴 確定  
[長期間の研修に伴う頻繁な移動が過重と評価された例]

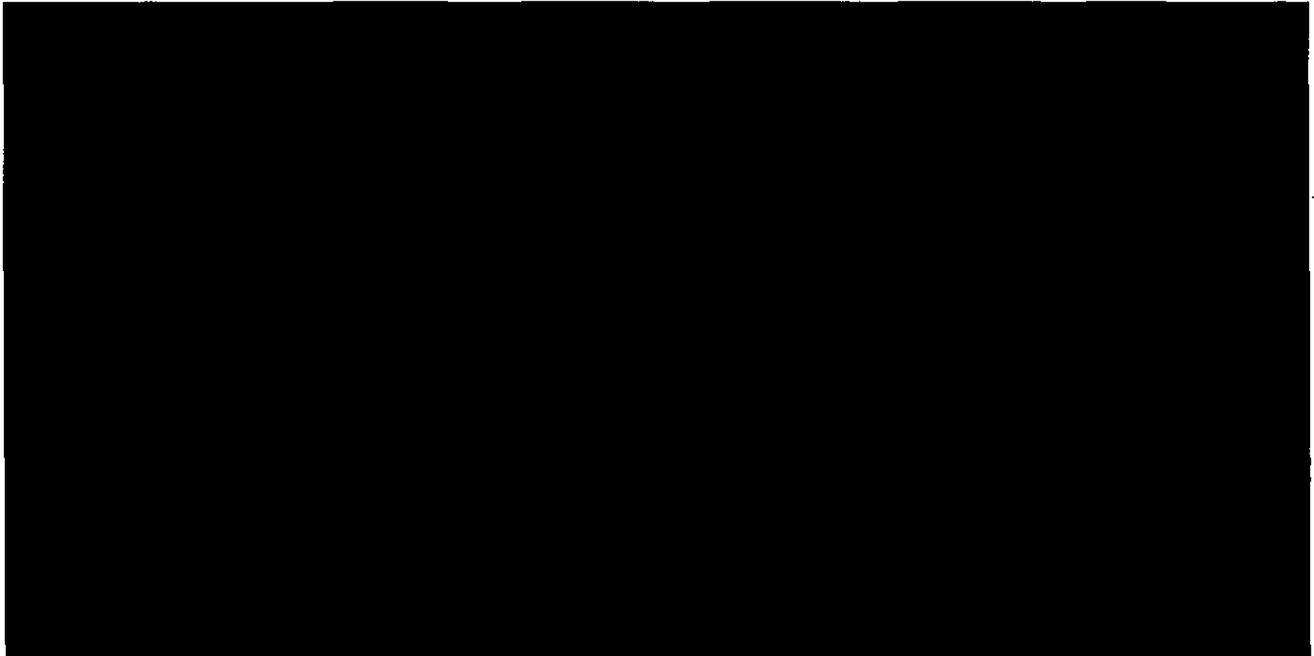
キーワード：長期間の研修

1 事件の概要

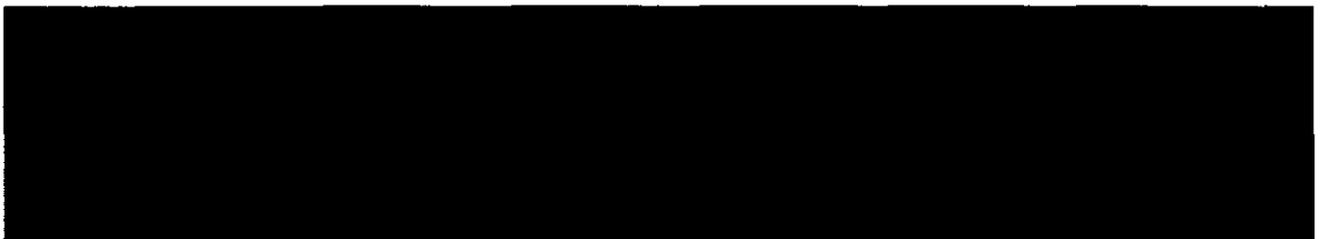


2 第一審及び控訴審判決要旨

(1) 〈連続した出張による過重性〉

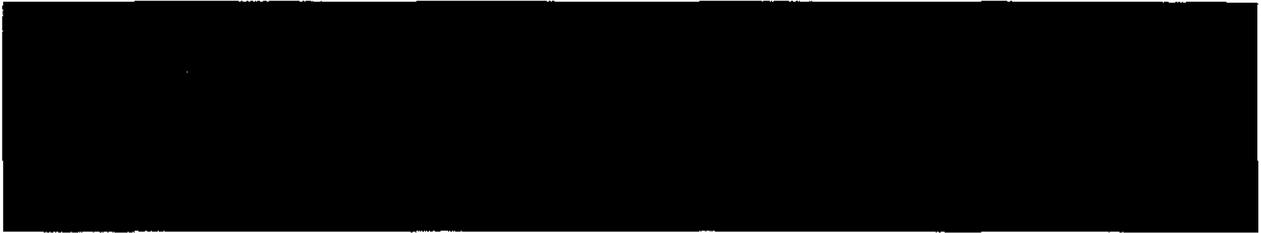


(2) 〈雇用形態選択及び研修のストレス〉

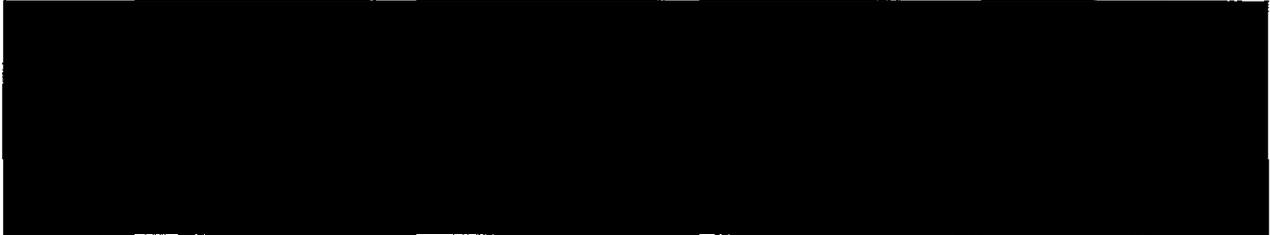


(3) 〈亡夫の危険因子〉





(4) 〈業務起因性〉



3 出張業務にかかる国側主張と判決との相違点

		国側主張	判決
1	宿泊を伴う 長期の研修 と頻繁な移動の過重性		

4 出張業務に係る主張の問題点（控訴審）

		問題点
1	宿泊を伴う 長期の研修 と頻繁な移動の過重性	